

大阪医科大学学報

第76号

平成20年 5月

(インターネット版)



◆目

平成20年度入学宣誓式	2
病院長就任挨拶	4
最終講義	5
名誉教授称号授与	10
新任教授紹介	11
グラウンド改修工事・バリアフリー対策	13
規程関係	14
管理職マネジメント研修	19
平成20年度事業計画及び予算の概要	20
格付について 入学試験・国家試験状況	27
寄付金報告	28
平成20年度科学研究費補助金交付内定	29
研究助成金等	32
受賞等	33
平成19年度提供講座	34
看護部紹介	35

◆次◆

中山国際医学医療交流センター	36
学位記授与式	40
LDセンター	42
学内行事	44
行事日程	46
看護専門学校	47
市民公開講座	48
附属病院関係事項	49
臨床治験センター	51
医療安全対策室・感染対策室	52
主要会議報告	53
保健管理室からのお知らせ	56
歴史資料館	58
俳句	60
高槻産業フェアへの出展	61

平成20年度入学宣誓式

医学部医学科

日 時： 平成20年 4月 3日（木） 14：00～

場 所： 新講義実習棟 1階 P101室

入学生： 103名



■平成20年度 医学部医学科入学式告辞

学長 植 木 實

皆さん、本日はご入学おめでとうございます。校庭の桜も皆様の合格に合わせるように満開となりました。ご出席下さいましたご両親並びにご家族の皆様もお慶びのことと拝察申し上げます。

本日はご来賓として関西医科大学の山下敏夫学長をはじめ、仁泉会 榎原理事長、高槻市医師会 甲斐会長、PA会 丸川会長、本学 國澤理事長、法人役員、名誉教授並びに教授各位のご出席をいただいております。

皆さんは大学入試に向かって小学校の高学年から中学・高等学校と長年の間、ずいぶん努力されてこられたことと存じますが、この間を支えて下さいましたご両親、ご家族に感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

本学は「グローバル社会で活躍できる人間性豊かな良医の養成」を建学の精神として掲げております。ここで、その精神が込められた本学の校旗の由来をご紹介します。お手元に配布しています由来書を原文のまま読みますと、『本校は創立以来、学術を授けるとともに人格の陶冶に力め、日本精神を錬磨涵養するを以て校是とせり。然も卒業生の大いに海外に雄飛発展せんことを期したり。故に校旗もこの精神に則り、日本精神の精華たる櫻花を飾り、校旗の地色を三色とす。上段赤色は赫々たる日本魂を表徴し、中段黄色は東亜の大陸を示し、下段の青緑色は蒼海を以て南米その他大洋の彼方を想起せしむるにあり』と書かれています。このように、校旗は本学卒業生の海外への雄飛を勧め、医師として人格の陶冶に努めよとするものであり、この由来を諸君やご両親、さらには教員の方にも知っておいてほしいと思います。

今日から皆さんは大阪医科大学の学生であります。入学してからの学生生活は医師になるための学習を怠ってはいけませんが、余暇のクラブ活動は大いに推奨致します。クラブ活動は医師として必要な肉体を鍛え、精神面を強くし、コミュニケーション能力を養うことができる大切な場であります。強い心身と良い人間関係を形成するコミュニケーション力の2つの要素は、医師に絶対に欠かせない重要なものであります。

こちらの旗ですが、毎年、西日本の44の医学部が参加する総合体育大会の昨年度の総合優勝旗であります。59年の歴史があるこの大会で本学の総合優勝は通算3度目であり、本学が大いにスポーツやクラ

ブ活動を勧めてきた結果であるといえます。本学を含め近畿圏数校の参加で始まったこの大会は、西日本の大会として発展し、現在では20種目の競技にまで増加しております。ぜひ皆さんも大いにクラブ活動に取り組み、この団体優勝旗を再び本学へ持ち帰っていただきたいと思ひます。

さて、オープンキャンパスなどでもご紹介していますが、本学は創立以来、学生の自主性、民主性を尊ぶ気風があり、年2回の学園祭、学友会はもちろん、国家試験などにも大学が指導したり、教員が口を挟むことはほとんどありません。ここで、皆さんにぜひ知っておいてほしい言葉があります。それは“discipline”という言葉であります。日本語として適切な訳はありませんが、強いて言い換えれば“道徳律”ともいわれます。この言葉は大学、企業、講座あるいはスポーツのチーム内などにおいて、社員、教員、学生など各自が規律、規則、約束事、学習や鍛錬など、自らが守る時に使う言葉であります。類似する言葉には“compliance（法令遵守）”がありますが、これは命令的に使われますので、意味合いが全く違うとされます。

本学は昔から自主性とこの“discipline（道徳律）”のある大学であります。今後はこれをさらに高めてゆきたいと思ひます。そのためにもこの“discipline”という言葉、新入生の皆さんも、また教員の方々にも十分理解していただき、より自主性と道徳律の高い大学にしていこうではありませんか。

最後に、諸君には大阪医科大学の学生としての誇りと自信を持ち、人間性豊かな良医となる目標を失わず、“よく学び、よく遊ぶ”を実践しながら、楽しさと実りの多い大学生活を送って下さいますことを希望致しまして、ご入学の祝詞と致します。

大学院医学研究科

日 時： 平成20年4月3日（木）11：00～
場 所： 別館3階 大学院多目的講義室
入学生： 26名

■平成20年度 大学院医学研究科入学式告辞

学長 植 木 實

この度は大学院へのご入学おめでとうございませう。今年には26名の方が入学されましたが、皆さんは優れた研究者、あるいは一流の臨床力を持つ指導医師になるために研究を志す方々と思ひます。

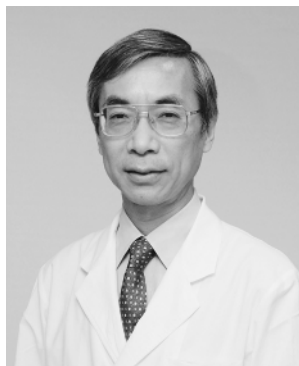
私は就任以来、大学の教育と研究のレベルアップや組織の改革に取り組み、皆さんのご支援によりかなりの改革をして参りました。しかし、大学院につきましては文部科学省の関係もあって改革が遅れていますが、大学院将来構想委員会を置き、谷川教授を委員長として専用施設、新しい「系」やコース、カリキュラムの導入、専任教員の採用など大きく変貌させつつあり、ここ数ヶ月の内に特色のある、姿の見える大学院になるよう、南大学院委員長をはじめ全委員が頑張っております。そして皆さんが早くから研究に取り組めて、3年くらいでも研究が仕上がり、同時に専門医資格も取得出来るようなシステムに変えていきたいと思ひます。

今日から皆さんは大学院生として研究に取り組まれます。ここで、ボストンにある有名なMIT（マサチューセッツ工科大学）の教授であり、素晴らしい研究者として注目されています石井裕氏の生き方をお話ししたいと思います。MITの教授は、実績があっても大きな成果を出し続けなければ生き残れない熾烈な世界であります。彼は研究のオリジナリティこそ命であり、既存の研究の改良などは決して行わず、誰もやっていない全く新しい研究を目指しています。彼はMITのトップレベルの研究者でありながらも、自分のことを特別な人間ではなく、むしろ凡人と思っておられて、だからこそ同僚の2倍の仕事を自らに課していると言ひます。また、彼は面白い言葉を言っております。『出る杭は打たれる』が、『出過ぎた杭は誰にも打てない』、即ち立派な研究に対しては誰も文句を言わないし、批判もしないと語っていることだす。

このように、研究はオリジナリティ、独創性が最優先されます。皆さんにもそれを肝に銘じ、今後の研究と研鑽に励まれますよう期待致します。

皆様方のご活躍を祈念してごあいさつと致します。

新病院長就任にあたって



病院長 花房 俊昭

平成20年4月1日付けで、竹中 洋前病院長の後任として大阪医科大学附属病院長を拝命いたしました花房俊昭です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ご承知の通り、本院は現在、全29診療科と4つのセンター、許可病床数989を有する高度医療施設で、1994年厚生労働省から「特定機能病院」の承認を受け、2005年には「日本医療機能評価機構」から「病院機能評価」の認定を受けております。また、高槻市や近隣地域の中核病院として住民や医療機関の皆様から信頼をいただいているだけでなく、優れた医療人（看護師、薬剤師、検査技師、栄養士など）の育成にも力を注いでおります。

本院の理念は「地域社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに、良識ある人間性豊かな医療人を育成します。」です。私の使命は、病院全職員の意見に耳を傾け、また皆様の御指導をいただきながら、この理念を高いレベルにおいて実現すべく努力することであると肝に銘じております。この理念を実現するにあたって、私が病院職員の皆様に提示したいモットーは、「全員参加」「全員向上」「全員笑顔」の3つです。

「全員参加」とは、top-downではなく、bottom-upで現場の皆様には色々な意見を出していただきたいということです。私の役目はそれを集約し、実現に向けてあらゆる努力をすることだと考えています。「全員向上」とは、病院に勤務する皆さんが、自分自身のレベルアップを目標に日々精進していただきたいとの期待を込めるとともに、私の役目は皆さんのそうした努力が実を結ぶよう、病院がサポートする体制を整えることと考えています。「全員笑顔」とは、「全員参加」「全員向上」を通じて、病院に勤務する皆さんが笑顔で誇りと喜びを持って病院で働いていただけるような病院を作りたい、と私が心から念じていることを表しています。

私はまだ若輩である上に浅学非才の身ではございますが、皆様方のご意見に真摯に耳を傾け、皆様方の御指導をいただきながら、誠心誠意、私の責任を全うさせていただく覚悟でおります。皆様方には温かくも厳しい御指導を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

略 歴

昭和25年11月16日生
昭和50年3月 大阪大学医学部卒業
昭和50年7月 臨床研修（大阪大学医学部附属病院）
昭和51年7月 住友病院内科医師
昭和54年7月 大阪大学医学部附属病院医員（第二内科）
昭和56年10月 英国London大学Middlesex病院免疫学科研究員
昭和58年10月 大阪大学医学部助手（第二内科）
平成6年10月 大阪大学医学部講師（第二内科）
平成12年4月 大阪医科大学教授（第一内科）
平成16年4月 大阪医科大学附属病院副院長（兼任）
平成20年4月 大阪医科大学附属病院長（兼任）現在に至る

最終講義

薬理学 教授 宮崎瑞夫

本年3月をもって定年を迎えられました薬理学・宮崎瑞夫教授の最終講義が以下のとおり行われました。

なお、4月1日付で名誉教授の称号を授与されました。

日 時：平成20年2月20日（水）14：00～15：00

場 所：臨床第1講堂

演 題：『人不知而不愠 不亦君子乎

一人知らずしていからず また君子ならずやー』



本学を退職するにあたり、在職21年弱の間に行った研究の成果とそれに至った流れをかいつままで述べることにします。

私は、徳島大学卒業後、昭和41年に大阪市立大学大学院に入り、研究の手ほどきを受けました。その直後2年余のエモリー大学(Atlanta, Georgia)薬理学教室留学中の間も、専らイヌを使ったダイナミックな腎の循環生理学を習いました。昭和47年に大阪市立大学助手(薬理学)となり、大学院で習った腎臓のレニン分泌の研究と職場となった薬理学を結びつける研究テーマとして「レニン阻害薬」をまず選びました。当時、ほとんど誰もやっていませんでした。リン脂質化合物から始めて、ペプスタチン化合物、スタチンの誘導体など、一時は世界最強のトリペプチド化合物をキッセイ薬品と共同で開発するところまで進んだのですが、経口投与にいたらず、その間にアンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬やアンジオテンシン受容体拮抗薬(ARB)が出現し、レニン阻害薬の開発は中止のやむなきに至ったのです。今またレニン阻害薬が復活し始めています。



当然、ACE阻害薬の薬理作用の研究も始めました。1980年代の初めです。ACE阻害薬は、レニン・アンジオテンシン(RA)系を抑制出来る画期的な薬ではありましたが、登場当時は高血圧とRA系の関係については疑問視される傾向にありました。なぜなら、当時RA系の指標とされていた血漿レニン活性が大半の高血圧患者で高くないことが判ったのです。ところが現実には、ACE阻害薬は本態性高血圧患者の70%近くの高血圧を単独で下げました。その時に登場したのが、今日でも未だに語られている血管拡張作用をもつキ

ニンのACE阻害薬による増強説です。根拠はアンジオテンシンIをアンジオテンシンIIに変換するこのACEとキニンを分解するキニネースIIとは同一の酵素なので、これが阻害されるとキニンが分解されなくなり、アンジオテンシン産生とは無関係に血圧が下がる、という説明です。しかし、天の邪鬼な私は、“ACE阻害薬は何処かに隠れているRA系に効いているのではなかるうか”と大それたことを考えました。その根拠は、血管平滑筋の断片標本がアンジオテンシンIIだけでなく、不活性なはずの前駆物質であるアンジオテンシンIによっても収縮を



最終講義

生じることに気付いていたからです。血管は、自身が備えるACEでアンジオテンシン I を II に変換できるのです。なぜこれを強調するかというと、それまでの常識は、アンジオテンシン II は専ら血流を介して血管に作用するとされていたのです。

ACE阻害薬が効くのは、高血圧では血管アンジオテンシン II 産生が亢進しているのではないかと考えたのです。この推測は的中しました。発症機序を異にする高血圧モデル動物で、血漿レニン活性のレベルとは無関係に血管ACE活性の上昇とアンジオテンシン II 産生の亢進が認められ、ACE阻害薬が降圧作用を発現することが確認できました。血管で過剰にアンジオテンシンを作っているACEを抑えるのが、ACE阻害薬の本当の薬理作用なのです。ARBの薬理作用も全く同じで血管で産生されるアンジオテンシン II を拮抗阻害するのです。

この血管アンジオテンシン II 産生機序の研究は、前任地の滋賀医科大学でその基礎を行いました。その一方で、血管組織はACE以外の酵素がアンジオテンシン II を作るという事実を発見しました。それがキマーゼchymaseです。大阪医科大学の20年は専らキマーゼの酵素学的研究とキマーゼが関与して作られるアンジオテンシン II による病態の研究でした。キマーゼは肥満細胞で作られ組織に分泌されます。アンジオテンシン II 産生能には種差があり、ヒト、サル、イヌ、またハムスターはアンジオテンシン II を作るが、ラットなどは作らないことを見つけ、その機序を分子学的レベルで解明しました。

キマーゼ由来のアンジオテンシン II による病態の研究は、我々の独断場となりました。冠動脈拡張術後に頻発する再狭窄や静脈バイパスグラフトの狭窄、血液透析のシャント部位の狭窄など、また、心筋梗塞直後の致死的不整脈発症の原因であることも突き止めました。さらに、術後の癒着や血管新生、癌の発育増殖、難治性大腸炎などへのキマーゼの関与を、臨床各科の院生たちと一緒に示しました。加えて、キマーゼには、MMP、TGF- β 、コラーゲン、エンドセリンの活性化作用があり、それらが一層多様な病態を引き起こしているようです。これらを薬理学教室として当然ながら、キマーゼの阻害薬の開発と絡めて進めてきました。キマーゼが関与する病態の多くが、いわゆる慢性疾患であり難病と言われるものなので、キマーゼ阻害薬の意義は大きいと思います。

私の薬理学教室は、医学部の薬理学教室らしい成果を上げることが出来たと信じています。これは、高井真司准教授、金徳男講師、多くの学術的な他講座の協力のおかげであることを強調すると共に、残った彼等が一層キマーゼの研究を発展させてくれることを期待し、且つ、皆様の御協力をお願いして終りとします。

最終講義

放射線医学 教授 楢林 勇

本年3月をもって定年を迎えられました放射線医学・楢林 勇教授の最終講義が以下のとおり行われました。

なお、4月1日付で名誉教授の称号を授与されました。

日 時：平成20年2月27日（水）14：00～15：00

場 所：臨床第1講堂

演 題：『放射線医学の42年—大阪医大における18年を振り返って—』



放射線医学は、1) 放射線診断学（画像診断）—X線診断・CR・CT診断・MRI・US—造影剤—、骨

塩定量、2) IVR (血管性・非血管性)、3) 核医学—PET・SPECT・動態検査、PET/CT,SPECT/CT—放射性医薬品—、4) 放射線腫瘍学 (放射線治療)—体外照射、密封小線源治療、定位照射、IMRT、粒子線治療—有用性と有害事象—、5) 放射線生物学・放射線物理学—人体へ放射線の照射を指示できるのは医師だけ—、6) 医用放射線安全管理学—放射線障害・医療被曝の軽減、など広範囲にわたる学問、診療科である。小生の教室造りの基本は、放射線診断学、核医学、放射線治療学の3本がバランスのとれた放射線医学教室である。Updateな臨床診療に精通した放射線科専門医の養成、画像診断の進歩、核医学・分子生物学的イメージングの研究、放射線治療を軸とした化学放射線治療による悪性腫瘍の治療成績の向上である。大阪医科大学放射線医学教室の研究テーマは、悪性腫瘍の診断と治療に関する研究、三次元表示による画像診断、放射線治療計画であり、具体的には、1) Diagnostic Radiology—CR,CT,MRI、MRS、2) Interventional Radiology、3) 核医学研究—動態検査、SPECT、PET/CT、呼吸器核医学、腫瘍核医学、4) 放射線腫瘍学—体外照射、密封小線源照射、定位照射、化学療法との併用—とした。

教室内で、放射線医学の教科書「重要項目 放射線医学」の分担執筆を教室員のみで行なって1996年に発刊できた。教室員が教科書を執筆することで教室の放射線医学が一挙にレベルアップした。最終的には、学位論文37編、著書49、論文724編 (英文141編)、学会発表1419演題に達した。最終講義では、大阪医大赴任前の仕事の中から肺癌と ^{67}Ga 集積、肺癌の ^{67}Ga 集積と照射線量、 ^{67}Ga 集積機序の基礎的研究、悪性腫瘍細胞HeLaS3、ASII、Yoshida sarcomaと正常皮膚線維芽細胞からの ^{67}Ga の排泄の研究、放射性ヨウ化人血清アルブミンによる局所肺リンパ動態の実験的臨床的研究、従来不明であったび慢性多発性肺塞栓症の換気、血流機能を動物実験で明らかにした研究成果を述べた。

また、肺疾患の換気・血流シンチグラフィー、肺癌患者における換気、血流イメージングへSPECTの導入、肺癌への ^{123}I -IMPと $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -DTPAの集積の研究、肺癌手術前後の換気、血流変化、肺癌の放射線治療前後の換気、血流変化、肺癌の換気、血流不均等分布について述べた。

教室における主な研究業績は、前後対向同時収集によるV/Q血流比の不均等頻度分布の評価、運動負荷換気・血流検査、肺癌の機能画像と形態画像の融合画像—肺換気、血流SPECTとCT— 1. Automatic Registration Tool (ART) 2. LungGuide™ Image Fusion: LungGuide Image Fusion Methodを用いた呼吸同期肺血流SPECT/CT融合画像、レーザー顕微鏡による ^{123}I -IMPの肺集積のマイクロオトラジオグラフィー、肺癌における ^{201}Tl -SPECT、肺結節性病変における ^{201}Tl -SPECTとCTガイド下生検の診断能の比較、肺癌の $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI SPECTにおける摂取と排泄の研究、 ^{201}Tl と $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBIの細胞への摂取と排泄、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBIの集積、排泄が薬剤耐性を予想できる可能性の研究、 ^{201}Tl と $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBIの樹立培養細胞への取り込み及び放出に関する基礎的研究、肺癌の $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI SPECTによる化学療法、放射線治療の効果予測に関する多施設による臨床的研究成果、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI SPECTと肺癌組織内MDR1、MRP1遺伝子発現量についての研究成果を述べ、抗癌剤、放射線治療に耐性をもたらす肺癌のapoptosis抵抗性の機序など肺癌研究の将来展望について言及した。次いで拡散強調MRIと得られたADC (見かけ上の拡散係数) とFDG-PETとSUVとの比較検討結果について述べた。教室における肺結節のCT透視下肺生検成績、放射線治療では、赴任以来担当した肺癌の化学放射線治療成績、同様に悪性リンパ腫の化学放射線治療成績を述べた。両者共、他の文献に比べてきわめて良好であった。その他、頭頸部癌、前立腺癌 (外照射・密封小線源治療)、乳房温存療法の良い放射線治療成績についても明らかにした。教室で以前から施行している肝癌の粉末CDDP治療例の治療成績、本学MR室で研究して発売となったMn造影剤の研究経過、三次元CTの大



最終講義

腸や胃の腹腔鏡下手術へのシミュレーションについて述べた。講義時間が限られているので、これらは小生並びに教室の研究成果の一端であり、まだまだ講義したいことがたくさんありますがどうか拙著ならびに論文を見ていただければ幸甚です。

大阪医大では、患者中心の放射線医学に終始でき、医師を貫けたことを嬉しく思います。最後に大阪医大における18年間をともに研究をしてくださった教室員並びに中央放射線部の皆様に衷心より感謝します。

最終講義

病理学Ⅱ 教授 森 浩志

本年3月をもって定年を迎えられました病理学Ⅱ・森 浩志教授の最終講義が以下のとおり行われました。

なお、4月1日付で名誉教授の称号を授与されました。

日 時：平成20年3月19日（水）14：00～15：00

場 所：臨床第1講堂

演 題：『大阪医科大学に二十有余年』



私は昭和39年に大阪大学を卒業後、新設愛媛大学医学部助教授を経て昭和61年に濱本祐二教授の後任として大阪医科大学に着任しました。同じ大阪大学でも、愛媛大学在任9年間の前後では職場環境や教職員の意識は変わっていました。大阪医大を含めると3つ半の職場を経験したことになります。私が前任地で言い聞かされ、そしてこの大学でも口にした言葉は、「ここを終の棲家と考えてはならない」、「人間至る處青山有り」でした。国立大学と異なり、単科医科大学の職員が他大学を経験するということは退職・転職を意味するので、退職金の連続一つをとっても不利です。しかし私は、教員、とくに医師職員と看護師が他の職場を経験することは、キザな言い方をすれば異文化を体験し、視野を広げることなので、望ましいことと考えています。卒業時に学生に向かっても「鮭は大海原に出て、餌をたらふく食って太り、再び母なる川に帰ってくる。諸君もここで最少限の医師教育を受けた。これから先は他所で勉強して成長し、もう一度ここに帰っておいで」と言っていました。臨床研修義務化でその考えの正しいことが示されたと考えます。

本学の病理学教室は教育・研究機能を強化するため、昭和30年9月濱本祐二教授を迎えて二人教授制となり、2教室（講座）として運営されていました。昭和61年、濱本教授の後任として私が病理学Ⅱ教室の二代目に着任しました。附属病院の病理組織診断は病理学教室が兼担する中央検査部で行われていましたが、平成元年11月、検体数の増加に対応し、診断精度を高めるべく、堤 啓助教授を専任病理医に迎え、平成13年7月病院病理部と改称し、初代病理部長に辻 求助教授を迎えました。

1980年代以降の我が国の変化は、グローバル・スタンダライゼーションという黒船に強いられた第三の開国とみることができ、教育・医療の世界にも大きな変革のうねりが押し寄せており、それへの対応の評価は後日を待たなければなりません。個々の大学、病院は生き残りをかけた対応に迫られています。本学は国立大学に一周回以上遅れて平成10年頃から教員機構の改革を開始しました。病理部門は病理学Ⅰ教室、病理学Ⅱ教室および病院病理部が統合されて、総合診断・治療学講座の中の病理学教室を構成することになりました。平成20年4月、私の定年退職とともに、1名の教室教授(chairperson)

の下に複数の専門教授を置く組織に変わるので、病理学Ⅱ教室という教員集団の名称は、二代の教授53年間で幕を閉じます。大講座・(大)教室の枠組みは流動的で、今後も統合・廃止・新設が繰り返されることでしょう。

昭和61年、着任時に与えられた研究室は旧解剖一号館で、翌年旧本館の階段教室改造の研究室に移りました。いずれも外観は風格ある建物でしたが、使い勝手が悪く、お粗末な研究室をあてがわれたものだと、暗澹たる気分になりました。実験設備が皆無の状態からの出発だったので、前任地の大学の中古装置・器具を借り受けたり、病理組織診断受託収入を担保に大学配分研究費を前借して電子顕微鏡や各種顕微鏡を購入するなど研究装置を整えました。消耗品とは言えば、隣の教室の不要印刷書類をもらってその裏を草稿用紙に使うなどのけちけち教室運営でした。このハングリーの時代が一番活気があり、研究にも教育活動にも業績を上げていたように思います。



本学着任前、私は電子顕微鏡学と形態計測学を主な研究手段として、性腺と下垂体の病態生理および腫瘍を研究していました。前任地では、＜研究はアマチュアだが診断病理では通用する＞、と評価されていたのに、本学に来てみると評価は逆になりました。その理由は単純なことで、大阪医大の病理学教室員は動物実験に不慣れで、ラット・マウスの掴み方や採血・解剖が不得手、また電子顕微鏡の手法などは遙か高嶺の高等技術だったからでしょう。私の着任後数年間は、＜臨床研修は学位取得の後でもできる、まず学位取得のために＞と、基礎教室の大学院に入学する若い人がまだいました。この人たちの尻を叩いて、実験成果を積むことができた、よく応えてくれたと思います。

研究プロジェクトの一つは下垂体腫瘍でしたが、ヒト下垂体腫瘍では他大学の脳神経外科グループと、ラット下垂体腫瘍株では製薬会社の動物部門との共同研究を組むことができました。それによって下記のような成果をあげることができました。プロラクチン産生腫瘍(PRLoma)にドーパミン作動薬を投与すると、血中PRLレベルが低下するとともに腫瘍サイズが縮小する。その機序に細胞抑制効果(cytostatic effect)と殺細胞効果(cytocidal effect)とがあり、腫瘍ごとに効き方が異なること、ドーパミン作動薬によって血中PRLレベルが低下するにも関わらず、分泌顆粒の細胞外放出(exocytosis)頻度が亢進するという矛盾する現象が見られるが、これは分泌顆粒が当該ホルモンのみから構成されるとの形態学徒の錯覚から来る落とし穴であること、長期ドーパミン・アゴニスト治療によって腫瘍細胞にアミロイドーシスが生じるが、それはペプチドホルモンの変質によるアミロイドの細胞内重合であること、などです。それに関連して分泌顆粒の開口放出が血中ホルモン濃度上昇に寄与する程度を推定する数式や、生理活性物質の免疫組織化学染色結果を定量化する方法などを考案しました。

その他、性腺・副腎関係では、アスコルビン酸(ビタミンC)合成不能ラットを用いて、ステロイドホルモン産生に関する研究を行いました。ビタミンCはステロイドホルモン産生に必須と考えられているが、ごく微量で足りること、ビタミンC長期欠乏状態ではストレスによって副腎皮質ホルモン産生が刺激されるのに反して、性腺刺激ホルモンレベルが低下するため血中男性ホルモンが低下すること等を明らかにしました。またラット精巢間細胞の特異的な傷害剤 ethan dimethane sulphonateを用いて、精巢間細胞に無限寿命の幹細胞あるいは有限寿命の前駆細胞が存在することや、免疫抑制剤cyclosporine Aの精巢毒性などを明らかにしました。

昭和60年頃の病理学授業時間数は290時間近くあり、病理学Ⅱ教室が病理学総論と病理組織実習を担当、各論を病理学Ⅰ教室が担当していましたが、私の着任直後にこれを改めてもらって、両教室が総論・各論および病理組織実習を均等に分担することになりました。その後、授業時限の短縮とコマ数の

最終講義 名誉教授称号授与

減少が続き、平成15年(2003年)度からProblem-Based Learning(PBL)を導入するため、病理学授業は大きく圧縮されて、病理学総論である「病気の成り立ち」75時間のみを残して病理学各論が無くなりました。この弊害が目につくようになってきているので、早急なカリキュラムの見直しが必要と考えます。

病理解剖(剖検)は1989年までは学内だけでも年間100体以上ありましたが、その後漸減して、2005年には学外依頼を含めても僅か35体に減少しています。毎年秋の解剖慰霊祭に臨床医、とくに教授諸氏の姿を見かけなくなって来たことと軌を一にしているように思われます。大学(企業)文化の表れでしょう。また、ご遺体を搬入してきていた学外病院が専任病理医を置き、あるいは依然当医大が出張解剖するものの、その病院固有の剖検番号をつけるようになったことも影響しています。ここに来て風向きが変わり始めたのは、臨床研修指定病院の認定を受けるために、病理医を置けない小規模学外病院からの依頼が増え始めたことです。臨床研修義務化によって病理学教室はより明確な形で社会的貢献が求められるようになりました。

名誉教授称号授与

平成20年4月1日(火)午前11時から、学長室において、
3月末日をもって退職されました宮崎 瑞夫先生、森 浩志先生、
榎林 勇先生に名誉教授の称号が授与されました。



新任教授（薬理学）紹介

この度、平成20年4月16日付で薬理学教室を担当させていただくことになりました。当薬理学教室は、本学開校の翌年の昭和3年に、岡川正之教授（当初大阪帝大助教授）が教室（当初は薬物学）を創設して以来、羽野 壽教授（昭和19年就任）、安藤囊一名誉教授（昭和30年に就任）、そして宮崎瑞夫名誉教授（昭和62年就任）と引き継がれ、第5代としてその責任の重さを痛感しているところです。

私は、昭和62年に本学を卒業して、直ちに大阪大学医学部第一内科学教室（現循環器内科）に入局し臨床研修、病院勤務を行いました。その後、同大学生化学教室の大学院に入り、基礎研究の研鑽を積みました。カナダ・トロント大学留学後も基礎研究を続け、帰国後一旦は臨床に戻りましたが、循環薬理を題材とした基礎研究を続け、21年ぶりに母校に帰ってまいりました。

薬理学は、薬と生体との相互作用により生じる現象を研究する学問ですが、近年はそれだけにとどまらず、様々な作用機序を持つ薬剤が次々に開発される時代ということで、それらの薬剤の系統的理解も求められるようになり、また、数多くの医薬品が開発されると、その一端で副作用、その他の問題点が生じ、また高齢化社会が進むにつれ、多剤併用や高齢者薬剤投与の問題などが噴出し、個々の患者の個性に合った“治療の個別化”を系統化する学問として臨床薬理学がその重要性を増すようになりました。さらに、21世紀はポストゲノム時代に入り、遺伝子情報を基にしたテーラーメイド医療が実践されつつあり、薬理遺伝学は薬物治療には欠かせない知識となりましたし、今後さらに重要になることが予想されます。このように、薬理学に要求されることは多岐にわたり、これから益々増加し、その理解は医療を行う上で必須になると考えられます。

私は、基礎医学、臨床医学の両方の経験を生かして、これらの薬理学における必要な知識を学生や大学院生に分かりやすく指導し、現代の医療にしっかりと対応できる医師の育成に努めてまいりたいと考えております。また研究面におきましても、教室の研究を継承しつつ、これまで研究してまいりました活性酸素、カルシウムシグナル、糖鎖といったキーワードを総括できるような研究を目指し、また、基礎研究にとどまらず臨床応用まで到達できるように研究を進めてまいります。何分経験が浅く未熟ではございますが、伝統のある教室と本学の更なる発展のために微力ながら尽力する所存でございますので、ご指導、ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



昭和38年1月10日生
昭和62年3月 大阪医科大学卒業
昭和62年4月 大阪大学医学部第一内科（現循環器内科）
入局
平成8年3月 大阪大学大学院医学系研究科博士課程
（生理系） 修了
平成9年8月 トロント大学ベスト研究所 留学
平成17年1月 大阪大学大学院医学系研究科 助手
平成17年4月 大阪大学大学院医学系研究科 学内講師
平成20年4月 大阪医科大学教授

薬理学
朝日 通雄 教授

新任教授紹介

新任教授（放射線医学）紹介

平成20年4月1日から、総合医学講座放射線医学教室を担当させていただくことになりました。初代柴田教授から赤木教授、楢林教授に次いで4代目にあたり、このような伝統ある教室を主宰させていただくことの重責を痛感しております。それとともに昨今の医局運営の厳しさを考えると、自然に身が引き締まります。

私は大阪大学で卒後研修を開始し、その後大阪府立成人病センターと大阪大学で各々12年ずつ勤務し、一貫して泌尿生殖器の画像診断に携わって参りました。その間のMRI、CTの進歩はめざましく、形態がより鮮明に描出されるようになっただけでなく、高磁場MRIによって機能的な診断まで行えるようになりました。また、CTと組み合わせることにより、FDG-PETが癌の病期診断や再発診断において注目を浴びるようになりました。それらのめまぐるしい変化の中にあることで、私は幸運にも新しい仕事をさせていただいて参りましたが、この貴重な経験を生かし本学でも臨床研究面で後輩を育てることに全力を傾注するつもりです。

診療面では、放射線医学教室教授は中央放射線部部長として診療各科にサービスを提供する立場にありますが、大学病院として恥ずかしくない最新の機器を駆使し最高のスタッフで、各診療科と十分な打ち合わせを行いつつ、最終的には患者様のためになるような日常診療を進めて行きたいと考えております。

私は卒業以来27年間母校とは離れておりましたが、その間サッカー部OBとして後輩と接する機会がありました。また、非常勤講師として母校の講義を長年担当させていただくなかでも、学生の気質の変化を肌で感じる事ができました。私の学生の頃と比べると、真面目で着実な学生が増えた一方、個性のある学生は減ったようにも思います。学生の個性を見極め、適性のある方向に導くのも教職の重要な仕事だと思えます。できるだけ学生と接する機会を増やし、良き相談相手になりたいと考えております。

大学時代は、母校に優勝旗を持ち帰ることを目標に真夏の練習に励んできたわけですが、今後は放射線医学教室ならびに中央放射線部の責任者として、大阪医大の発展にできるだけ貢献することに全力で立ち向かう所存ですので、なにとぞご指導、ご鞭撻いただきますように宜しくお願いします。



放射線医学
鳴海 善文 教授

昭和28年9月9日生
昭和56年3月 大阪医科大学医学部卒業
昭和57年7月 大阪大学医学部附属病院泌尿器科にて研修
昭和58年7月 大阪大学医学部放射線医学教室入局
昭和60年10月 大阪府立成人病センター放射線診断科医員
平成3年12月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校客員研究員（～平成4年12月）
平成6年4月 大阪府立成人病センター放射線診断科医長
平成7年6月 大阪大学医学部放射線医学教室講師
平成9年4月 大阪大学医学部附属病院放射線部副部長兼助教授
平成11年11月 文部省短期在外研究員としてオランダ・ドイツ・アメリカ合衆国へ派遣
平成14年2月 市立貝塚病院放射線科部長
平成14年7月 大阪大学大学院医学系研究科診療画像情報学寄付講座客員教授
平成17年4月 大阪府立成人病センター放射線診断科主任部長
平成19年4月 ハイメディッククリニック・ウェスト 画像診断センター長

■さわらぎキャンパス・グラウンドの改修について

これまで教育機構（以前の学生部）はクラブ主将と懇談の場を持ち、クラブ運営における要望を聞いてきました。毎年、クラブからあがってくる要望の一つに、さわらぎキャンパス・グラウンドの改修がありました。もともとこの地は粘土層からなる田圃で水捌けが悪く、一度、雨が降ると泥田状態になります。ラグビー、サッカー、野球、陸上部などの練習に支障をきたす上、捻挫など怪我が絶えない状況でした。そのためグラウンドの改修は長年の学生の夢でした。昨年度、本学の運動クラブは西日本医学部体育大会で久しぶりに（通算3回目）総合優勝を果たしました。そのお祝いも兼ねて、グラウンドの改修事業が平成20年度の法人の事業計画に盛り込まれ、すでにテニスコートの改修が始まり、今夏には運動場の改修が行われることになっています。これも一重に法人のご理解とご協力の賜物でありここに深謝いたします。この原稿を書いている間に第102回医師国家試験の合格発表があり、何とか無事に（現役95.1%、全国平均94.4%）着地でき教育機構長として二重の喜びに堪えません。これからも教育機構は教育センターと学生生活支援センターとともに学生の教育、学生生活の向上に努めていきたいと考えています。

平成20年3月28日

教育機構長 大槻 勝紀



改修前



改修後

■バリアフリー対策：講義実習棟1階正面入口の「自動ドア」設置について

講義実習棟1階正面入口の扉は30数年前に取り付けられ、その後取り替えられることもなく、長い歴史を刻んできました。しかしその間に老朽化も進み、皆さんもご存知の通り、開けるのにも重くて大変という状況で、また入口には段差があり、道もデコボコでした。このような状態に対し、大学基準協会の調査時にも「バリアフリー対策がやや遅れている」と指摘を受けました。確かにこのままでは、例えば車椅子で講義実習棟の1階正面から出入りするのには困難です。そこで今般、写真のような自動ドアを同場所に設置しました。また入口の段差を取り、緩やかなスロープも付け、道のデコボコも平坦にしました。これで今後は車椅子でもスムーズに講義実習棟の出入りが可能となり、バリアフリー対策としても十分と思います。



総合企画部 磯 田

規程関係

規程制定

次の規程が制定されました

■学校法人大阪医科大学予算規程

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、学校法人大阪医科大学経理規程（以下経理規程という。）第7章予算に係る規定の詳細を定めることにより、予算業務の責任と権限の所在をより明確にするとともに、予算編成及び予算統制に資することを目的とする。

(統制の方法)

第2条 予算統制の方法は、原則として収入及び支出の金額統制の方法による。

(統制の時点)

第3条 予算の執行状況の把握は、原則として発生主義による。

2 建物の建設費用等将来の特定の支出に備えるための資金積立は、予算の執行において、その予算期間の支出とする。

(予算の種類)

第4条 予算の種類は、経理規程第5.1条に定める形態分類による予算と業務予算（目的別予算）とする。

2 業務予算（目的別予算）は、新規業務予算と経常業務予算とで構成する。

第2章 予算単位及び責任者

(予算単位)

第5条 第1条の目的を達成するため予算単位をおく。

2 予算単位は、予算の執行を分担する活動単位であって、本学の収入及び支出は、すべていずれかの予算単位の収入及び支出としてこれを計上する。

3 予算単位は、別表1及び別表2に定めるとおりとする。（※別表掲載省略）

(予算責任者)

第6条 経理規程第7条第2項に定める経理業務統括責任者は、予算業務統括責任者として予算業務全般を統括する。

2 経理業務統括責任者は、予算実務責任者に対し予算の執行状況について説明を求められるとともに、予算業務の内容を理事長に報告しなければならない。

3 経理規程第7条第3項に定める経理単位責任者は、経理単位予算責任者として経理単位の予算案の編成及び執行について、理事長に対し責任を負う。

4 経理規程第5.4条に定める予算責任者は、各職域予算責任者とし、各職域の長をもって充てる。

5 職域予算責任者は必要に応じその予算単位を細分して、予算単位の業務を遂行するため、予算の実務を担当する予算実務責任者を指名することができる。

6 各予算単位における予算業務を次のとおりとする。

(1) 業務予算計画書及び次年度以降の将来計画書並びに予算要望書を作成すること。

① 予算編成方針に基づく予算単位の業務予算計画書 様式1 (※様式掲載省略)

② 次年度以降の将来計画書 様式2 様式3

③ 予算要望書（新規業務） 様式4

(2) 予算単位における予算執行の管理及びその報告書を作成すること。

① 予算単位における予算執行を常に把握し、予算管理を確実に実施すること。

② 半期及び年度ごとに予算の執行状況を予算業務統括責任者及び経理単位予算責任者に報告すること。

第3章 予算会議

(目的)

第7条 予算編成の審議調整及び予算執行結果の検証を行わせるため、予算会議をおく。

(構成)

第8条 予算会議は、企画担当理事、財務担当理事、経理単位予算責任者をもって組織する。

2 予算会議は、理事長が定期もしくは随時に招集し、議長となる。

3 予算会議は、必要に応じて関係者の出席を求め、説明を聴取することができる。

(任務)

第9条 予算会議は、次の各号に掲げる事項について審議する。

(1) 年度方針案及び予算編成方針案

(2) 経過期間の予算実績対照表にもとづく予算執行結果の検討

(3) 残存期間の予算について修正を必要とするときは、その修正案の編成

(4) その他予算統制に関して理事長の指示する事項

第4章 予算の編成

(基準)

第10条 予算は明瞭な方針に基づき、本学の教育、研究、診療、その他の事業の計画と密接に連繋して編成されなければならない。

2 支出予算の額は、収入予算の額を超えてはならない。

(体系)

第11条 予算体系は、原則として学校法人会計基準に定めるところによる。

(方針の立案)

第12条 財務部は、理事長の指示に基づき、年度方針及び年度予算の編成方針を起案する。

2 企画担当理事及び財務担当理事並びに経理単位予算責任者は、年度方針及び予算編成方針に追加すべき必要な事項を予算会議において提案する。

3 財務部は、過年度から継続している事項及び過年度に決定した計画事項を漏れなく調査し、年度方針及び予算編成方針の決定において既定の事項と矛盾するところがないよう注力する。

(方針の内容)

第13条 年度方針及び予算方針は、次の諸事項を主たる内容とする。

(1) 教育関係

① 予算年度の教育面において予想される重要問題に対する方針

② 過年度決定計画で予算年度に実行する事項についての方針

③ 学生募集についての方針

④ 教育用施設、資材についての方針

(2) 研究関係

① 予算年度の研究面において予想される重要問題に対する方針

② 過年度決定計画で予算年度に実行する事項についての方針

③ 新たにまたは臨時に行なわれる研究についての方針

④ 研究用施設、資材についての方針

(3) 診療関係

① 予算年度の診療面において予想される重要問題に対する方針

② 過年度決定計画で予算年度に実行する事項についての方針

(4) 付帯事業関係

① 総合企画（病院企画）が企画する事業用施設、資材についての方針

② 予算年度における本条第1項第1号から第3号の施設、資材の事業の運営の方針

③ 予算年度に予定される主要行事についての方針

(5) 人事関係

① 予算年度における教員・職員の雇用、退職等の人事計画についての方針

② 給料、賞与、手当等についての方針

規程関係

(6) 財務関係

- ① 学納金についての方針
- ② 借入金及び返済金についての方針
- ③ 募金についての方針
- ④ 補助金申請についての方針
- ⑤ 消費支出についての方針
- ⑥ 資金支出についての方針

(方針の決定)

第14条 理事長は、年度方針案及び予算編成方針案を理事会に上程し、その審議を経て、年度方針及び予算編成方針を決定し、これを各経理単位予算責任者に通知しなければならない。

- 2 各経理単位予算責任者は、それぞれ所管の各職域予算責任者に年度方針及び予算編成方針を通知しなければならない。

(予算単位別予算原案)

第15条 各予算単位の職域予算責任者は、年度方針及び予算編成方針にもとづいて当該予算単位所管計画原案及び年度予算原案を作成して、これを財務部に提出する。

(総合予算原案)

第16条 財務部は、各予算単位の年度計画原案及び年度予算原案を総合して、総合年度計画原案及び総合予算原案を作成し理事長に提出する。

- 2 理事長は、予算会議を招集して、前項の原案を上程する。
- 3 予算会議は、年度方針及び予算編成方針にもとづいて前項の原案を審議調整する。
- 4 理事長は、予算会議の審議を参照して調整方針を決定し、各経理単位予算責任者及び財務部にこれを通知する。
- 5 各経理単位予算責任者は、前項の調整方針にもとづき、財務部の援助を得て必要な修正を行なう。
- 6 理事長は、調整後の原案を予算会議に上程し、その審議を経て、年度計画案及び年度予算案を決定する。

(審議及び決定)

第17条 理事長は、年度計画案及び年度予算案を理事会に上程し、その審議を経て決定しなければならない。

(諮問)

第18条 理事長は、年度計画案及び年度予算案を評議員会に付議し、その意見を聞かなければならない。

第5章 補正予算

(補正を要する場合)

第19条 やむを得ない事由により、予備費の枠内では対応できない程度の支出予算の追加その他変更を必要とするときは、補正予算を編成することができる。

(補正の手続き)

第20条 予算の補正は、理事長の発議による場合のほか、各経理単位予算責任者が事由を付して理事長に予算の補正を請求することができる。

- 2 理事長は、自らの発議による場合及び前項の請求を必要と認めた場合には予算会議を直ちに招集し、その審議の結果補正を必要とする場合は、理事会の審議を経て予算の補正を行なうものとする。
- 3 予算の補正は、事前に評議員会の意見を聞かなければならない。

第6章 予算の執行

(予算の遵守)

第21条 経理単位予算責任者及び職域予算責任者は、責任を以って予算を執行しなければならない。

- 2 経理単位予算責任者及び職域予算責任者は、予算を超える支出をしてはならない。

(予算の流用)

第22条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない事由により、個別の事業予算額を超えて支出しようとするときは、当該事業の属する経理単位の他の事業予算の予算残額をもってその超える金額を補填しうる範囲内の金

額に限り、下記の承認権限者の承認を得てこれを行なうことができる。ただし、大科目間の流用は認めない。

- (1) 金額が100万円以上の案件 担当理事運営会議の承認
- (2) 金額が100万円未満の案件 理事長の承認

2 前項の承認を求めるには、経理単位予算責任者はこれに必要な書類を作成し財務部を経て理事長に提出する。

(予算の超過)

第23条 予算の流用では対応できない予算の超過が生じた場合には、下記の承認権限者の承認を得てこれを行なうことができる。

- (1) 金額が100万円以上の案件 担当理事運営会議の承認
- (2) 金額が100万円未満の案件 理事長の承認

(予算外支出)

第24条 予算編成時には予測しがたい事由により予算外支出が生じた場合、その他やむを得ない事由により予算外支出が生じた場合には、下記の承認権限者の承認を得てこれを行なうことができる。

- (1) 金額が100万円以上の案件 担当理事運営会議の承認
- (2) 金額が100万円未満の案件 理事長の承認

(予備費の使用)

第25条 地震・火災等予測しがたい事由により多額の予算の不足を生じた場合には、予備費を使用することができる。ただし、理事会の承認を得なければならない。

(予算残高の繰越)

第26条 予算残高の年度繰越は原則として行なわない。ただし、講座研究費等の研究費及び当該年度に予算執行するよりも次年度以降に繰越した方が事業の成果もあがるとともに、経費の廉価となる場合には、繰越を認めることができる。繰越を請求する場合には下記の承認権限者の承認を得てこれを行なうことができる。

- (1) 研究費予算 学長の承認
- (2) 前号以外の予算 理事長の承認

(仮発注)

第27条 翌年度予算成立前に本年度中に仮発注をする場合には、下記の承認権限者の承認を得てこれを行なうことができる。

- (1) 金額が100万円以上の案件 担当理事運営会議の承認
- (2) 金額が100万円未満の案件 理事長の承認

(予算統制簿)

第28条 予算の執行にあたり、各職域予算責任者は予算統制簿を備える。

2 予算統制簿には、少なくとも予算科目別に予算金額、実績金額及び予算残高の三欄を設け継続して記録するものとする。

3 予算統制簿は、各予算単位内において、第6条に定める予算実務責任者別に細分して備えることができる。

第7章 予算実績の対照及び差異分析

(実績の把握)

第29条 職域予算責任者は、常に予算の実績を把握し、予算及び年度計画と対比して予算執行の結果の検討を行い、運営効率の向上を図らなければならない。

(差異の処置)

第30条 財務部が各予算単位につき予算の執行の途中において予算と実績との間に異常な差異を予見しまたは発見したときは、遅滞なく理事長に報告し、理事長を経由して予算警告書とその予算単位の職域予算責任者に交付する。

2 職域予算責任者は、予算の執行の途中において予算と実績との間に異常な差異を予見し、または発見したとき、及び予算警告書を受けたときは、遅滞なくその対策を講じ、対策の経過を財務部を経て理事長に報告しなければならない。

規程関係

(予算実績対照表)

第31条 財務部は、所定の期日までに年度の予算単位別ならびに総合予算実績対照表を作成して、理事長に提出する。

- 2 予算と実績との間に著しい差異があるときは、その事由を調査して付記する。
- 3 理事長は、前項の予算実績対照表を予算会議に付議して検討しなければならない。

第8章 報告

(理事会への報告)

第32条 理事長は、予算実績ならびに年度計画に対する実績を理事会に報告し、その承認を得なければならない。

- 2 理事長は、前項のため必要に応じ各職域予算責任者から、その予算単位の年度計画の実施結果の報告を徴する。

(評議員会への報告)

第33条 理事長は、評議員会において事業報告及び決算報告を以って、年度計画及び年度予算の結果の報告を行わなければならない。

第9章 審査

第34条 理事長は、予算統制の運営を有効ならしめるため、年一回専門家に依頼して予算制度の審査を行なわせ、各職域予算責任者及び財務部がその責任を有効に果たしうるように専門的立場から必要な助言を提供させるとともに、運営の実績に対する客観的な分析、評定にもとづいた意見書を理事長に提供させるものとする。

(改 廃)

第35条 この規程の改廃は理事会の承認をもって行うものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成20年3月1日より施行する。
- 2 この規程の施行に伴い、平成18年9月1日施行の学校法人大阪医科大学予算編成及び執行に係る細則は廃止する。

規程改正

次の規程が改正されました

■学校法人大阪医科大学経理規程	(平成20年4月1日改正) _____
■学校法人大阪医科大学鈎奨学基金規程	(平成20年4月1日改正) _____
■大阪医科大学研究機構規程	(平成20年4月1日改正) _____
■大阪医科大学附属病院放射線予防規程	(平成20年4月1日改正) _____
■大阪医科大学附属病院安全推進部規程	(平成20年4月1日改正) _____
■大阪医科大学附属病院安全対策室規程	(平成20年4月1日改正) _____
■大阪医科大学附属病院安全管理委員会規程	(平成20年4月1日改正) _____
■大阪医科大学附属病院感染対策室規程	(平成20年4月1日改正) _____
■大阪医科大学附属病院感染対策委員会規程	(平成20年4月1日改正) _____

※今号から、規程関係の掲載方法を変更致しました。内容掲載は重要かつ周知徹底が必要な規程のみとし、それ以外については、制定及び改正のあった規程の名称並びに施行日のみを表記致します。

※各規程については、Online規程集(学内限定)にてご確認下さい。都合上Online規程集の更新が遅れる場合があります。

■管理職マネジメント研修の開催

2月16日（土）に管理職研修の一環として主幹以上の管理職（教員、看護部除く）を対象にマネジメント力向上を目指す半日研修『LIFO（Life Orientation）セミナー』を開催し、34名（対象者46名、参加率74%）と多くの管理職の方々に参加いただきました。

今回の研修会は自分の持っている独自の強みやスタイル（特徴）を明らかにすることが出来るLIFOという自己診断ツールを使い、自己分析による個人の基本的な指向性やマネジメントスタイルを理解することで、対人コミュニケーションの向上を円滑に展開でき、組織の活性化に役立てることの出来る研修です。講師には病院や大学での取り組みに経験豊富な古閑慎一郎先生（株）ビジネスコンサルタント）をお招きし、マネジメントの昨今の動向等もご指導いただき、出席いただいた方々からは大変好評を得ており、今後の職場での活用が期待できるものと確信しています。また、このような研修は今後も各階層や教職員全体に広げていくことを計画しています。

（経営推進室）



平成20年度事業計画及び予算の概要

I. 事業計画立案の背景

【国際的背景】

本法人の目的は「教育基本法及び学校教育法に従い、医科大学その他の教育施設を設置し、国際的視野に立った教育・研究及び良質な医療の実践をとおして人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成すること」である。

地球規模のエネルギー資源には限りがあることを前提に、現在の人口爆発はやがて終息し、世界的な人口減少に向かうと考えられる。先進国ではすでに少子高齢化を伴う人口減少に向かっており、労働力不足が顕在化しつつあり、現在の規模の経済活動やそれを支える組織は、将来的に維持できないことを念頭に置かなければならない。

【国内的背景】

我が国の18歳人口は平成20年度に最低数まで減少するとされており、高等教育機関の受験生数は近年で最も低い水準になると予測される。その中でも医学部医学科の入学生が定員割れるる危惧は無いが、現場の教員の感じているところによれば、近年の学生の質が変化していることは否めず、教育体制の改善は持続的に行わなければならない。

本法人の7割を超える収益を得ている附属病院に関しては、法人の財政基盤の観点を持つべきで、現在進んでいる医療制度構造改革の方向性を見極め、教育中核病院としての在り方を再度見直す必要がある。すなわち、急性期医療の効率的短縮、それを実現するための回復期医療の充実、生活の質の向上を目指した慢性期医療の確立、21世紀的な死生観の醸成による終末期医療の模索など、21世紀型市民の在り方に即した医学・医療教育の場となる附属病院を形成するために、医師養成のみならず他の医療従事者養成に関しても政策の誘導に乗るだけでなく、自ら新しい構造や制度を提案することを求められている。

【法人の現状】

本法人は20世紀末まで、建物規制が厳しい中で病棟整備や大学整備を行い、本部図書館棟の建築をもって創立時の第1次整備計画に次ぐ第2次整備計画を終えた。しかしながら、看護専門学校校舎、病院7号館、学生講義実習棟などの第3次整備計画は、様々な制度構造改革の中で、地域医療計画が策定される前に、都市再生緊急整備計画の政令の一環として始まった。この第3次整備計画は、法人が設置する各機関の強い要望に基づいて実施されたが、短期間に莫大な投資を行うことになった。

また、都市再生緊急整備計画の期限である十数年後までに完成する病院新棟を始めとする建築に向けて、既存病棟の改修工事を纏めて行った。その過程で年度事業計画の前倒しや突発的な事業執行が、現場の予算流用によって行われ、事業執行の迅速性が確保された一方で、結果として固定的な維持費や減価償却が発生、加えて改修工事費が単年度で計上されたことなどにより財政状況は悪化した。現時点では機動性を整理し、予算執行の統制をルール化する必要性が明らかになっている。また本法人の財政の中で、最も比率の高い医療収入については、過去数年の減少に歯止めが掛かり回復傾向にある。

学校法人の主たる事業である教育研究に関しては、平成20年1月に(学)関西大学ならびに(学)大阪薬科大学と共に、共同設置学部を平成22年度に開設する検討が始まったところである。本件に関して、平成20年度決算を以って設置認可の申請を行うためにも、平成20年度予算は慎重

な上にも慎重に検討する必要がある。

Ⅱ. 事業計画立案の方針

平成16年度から現在に至るまでに行った本法人の建物新築、すなわち看護専門学校新校舎、新総合棟病院7号館、新講義実習棟(PA会館)並びに病院機能評価受審を皮切りに始めた附属病院改修工事に費やした設備金額は総額100億円以上に達し、本学にとっても過去に例のない巨額の投資となり、本法人の財政が圧迫され、種々の経営指標にマイナスのダメージを与えたのは事実である。

加えて、収入面の伸びが当方の見込み通りに行かないことも本法人の財政を圧迫している大きな原因である。支出面は、平成19年度から格段の緊縮財政政策を採っており、各項目の支出削減をかなり行っているが、設備投資に対する引当金の積み増し、医療政策変更による人件費の増加、建物投資後のメンテナンス費の増大など、緊縮財政の最中でも支出削減が決して思うに任せない背景もある。

設備投資ができない状態は、平成20年度も全く同様で、現状の本法人に一番求められているのは「財政の改革」「財政基盤の強化」であり、今迄以上の緊縮財政の大方針を採る。すなわち各項目において聖域なき支出削減を、大鉦を振るって実施することが至上命題である。これは平成22年4月に開校を予定している大学看護学科を実現させるためにも、借り入れ等の負債額の増加を抑制し、財政上の係数改善を果たし、文部科学省が基準とする数値目標を達成しなければならない。

部門毎の事業計画は、まず事務部門では、①IT統合を駆使した業務効率化②手順の見直しによる業務集約化を行い、柔軟性のある組織へ移行することを事業計画の柱とする。大学、看護学校の教育関係の事業計画としては、①学校教育法改正に伴う教員組織の充実・大学院再整備②大学看護学科の設立が今後の大きな課題である。病院関係の事業計画としては、①患者確保対策②経営改善への取り組み〔医療制度改革、診療報酬改定等への対応〕③病床運営方針と改修計画が課題である。

Ⅲ. 平成20年度事業計画

1. 計画事業

(1) 長期建物計画基本構想

本法人が大学病院として、教育研修病院として、将来的に発展し健全な運営をしていくためには、新棟建設を検討する時期に来ている。今後、効率の良い新棟建設構想(基本構想)のための時期、場所、面積、病棟病床数、各部門配置、外来機能、診療科数等を順序立てて計画していく。また、新棟建設に掛かる経費計算、その資金調達方法も重要なポイントとなり並行して検討。(第一案：平成20年度上期)

(2) 電子カルテ構想

平成9年にオーダリングシステムを稼働させ、以後様々な管理システムを構築しながらより電子カルテに近い存在に変貌させてきた。しかし、次代の全体システム更改をここ数年の間に行う必要がある、近い将来電子カルテを基幹としたシステム導入が必須のものとなってきた。平成20年度に「電子カルテ」導入のプロジェクトチームを立ち上げて、導入費用別、規模形態別のメリット・デメリットを認識し、将来の本格導入を目標に、その具体的構想の検討を開始。(平成20年度立ち上げ)

平成20年度 事業計画及び予算の概要

(3) 共同学部設置準備 [看護学科4年制化実施計画]

大阪医科大学・関西大学・大阪薬科大学は平成20年1月、医学や工学、薬学を学際的に学ぶ人材や看護師を育成する学部を、3大学共同で平成22年4月に設ける計画を発表した。3大学の代表者による協議会を発足させ、教員や事務局の組織、運営方法などを検討する。本法人も下記の日程に従って新学部看護学科設置の準備を進める。

平成20年4月	新学部設置準備室の開設予定
平成21年4月	文部科学省に大学設置認可申請書、養成学校指定申請書及び寄附行為変更認可申請書を提出
平成21年10月	文部科学省から設置認可通知の接受予定
平成22年4月	開校・新入生受入

(4) 全学的募金活動

本学を維持・発展させるためには、周年や事業目的の募金活動のほかに、恒常的寄付を通じて本学を支える広範な会員組織の活動も極めて重要となる。昨年度立ち上げた恒常的な募金活動の組織「フレンズ会」を通じて、今年度は更なる活発な全学的募金活動を展開する。寄付金は本学法人の教育・研究の基金とし、同時に大学組織の強化に繋げるものであるが、その用途は、学生・教職員はじめステークホルダーの負託に広く応えることを目的とする。(平成20年度以降)

(5) サテライト施設構想

地域を越え集客可能な場所に分院を持つことは意味あることと判断し、開設する方向で検討中。診療科目については、「人間ドック」を行う検診スペース、並びに大学ならではの近隣と競合しない「特殊外来」を中心としたクリニック、例えば女性、睡眠の外来診療を行う。現在、採算性の問題や、より具体的な運営方法を検討中で、資金の捻出方法、また家賃値下げや機器購入の価格交渉を行った上での採算性はどうかなどを十分に検討している段階である。(平成20年度計画、平成21年4月開始)

2. 実施事業

(1) 病棟改修工事 (211百万円)

平成20年度についても、その継続事業として、34・35・62病棟の改修工事を行う。なお34・35病棟は、昭和41年に建設され、建具、給排水設備及び空調設備等が著しく老朽化しており早急の改善が必要である。(平成20年6月開始)

(2) 画像フィルムレスシステム構築 (77百万円)

臨床現場への原本提供はフィルムによるものであり、その運搬や管理は事務職員のみならず、不足する医師・看護師への過重な手間となっている。高精細モニタを臨床現場の要所に配置し、完全フィルムレス運用を実現することで各部門の事務負担を軽減して、本来の診療業務へ注力できる体制を作る。(平成20年7月開始予定)

(3) EOG排出処理対策 (40百万円)

特殊医療器材の半数を、現在3台のEOG滅菌機で滅菌。現在の滅菌機は購入後8年を経過しており、EOGガス配管は大幅に耐久年数を超過。平成21年には大阪府条例の大気排出ガス規制が強化、それに先駆け安全・危機管理面を強化するために、大型カセット式EOG滅菌機の更新購入を行う。(平成20年6月予定)

平成20年度 事業計画及び予算の概要

- (4) 総合研究棟エアコン更新工事 (26百万円)
総合研究棟は竣工後17年経過し、各室内設備のエアコンも故障が目立ってきている。また最新のインバーターエアコンにすることで、約40%電力使用量が抑えられる見込みである。(平成20年5月開始予定)
- (5) 動物実験センター改修工事 (25百万円)
同センターは昭和37年に建設されて以来45年が経過しているが、本施設の狭隘さ、老朽化を容認しつつ、工夫を凝らし実験の場を提供してきた。しかし新制定された動物実験規程では、本学の現状面積では足りない。本来一日も早い新動物実験施設の建設が待たれるが、建設時期が確定しないため、当面の策として、同センターに隣接した第2研究館2階跡地を動物実験のために活用する。(平成20年5月予定)
- (6) さわらぎキャンパスグラウンド改修工事 (21百万円)
同キャンパスグラウンドは、昭和40年から本学学生の運動場として体育授業・クラブ活動に使用。開始当時から水捌けが悪くて、雨が降ると泥田状態となり、毎年グラウンドへの盛り土等を行ってきたが、改善までには至っていない。本学学生40年間の願いでもあるグラウンド改良を実施したい。(平成20年8月実施)
- (7) 卒後臨床研修センター (20百万円)
従前より臨床研修医の職場環境改善を目的としセンター移転の上申があったが、ここに至り可能な限り早急なるセンター移転の要望があり、また若年医師の確保が困難な状況を鑑み、同センターの移転改装を平成20年に行う。(平成20年4月実施)

3. 着手事業 [費用支払が平成21年度となる事業]

- (1) 法人ITシステム統合 [第2期構築]
同システム統合(第1期)は平成19年4月より財務・人事・調達系システムが順調に稼動し始めている。第1期では部署コードの統一、二重入力削減、部署別支出の把握が実施でき成果が出ている。第2期では、資産管理、財務系・人事系の文書管理、看護専門学校の管理業務、比較的簡素な財務・業務分析システムなどの構築を行い、更なる業務の効率化や情報分析の透明化を図る。(金額65百万円：平成20年4月～21年度中に実施)
- (2) 旧看護専門学校・愛泉寮解体工事
本学所有の「旧看護専門学校・愛泉寮用地(高槻市八丁畷町)」と大阪府所有「府営高槻住宅用地(高槻市北園町)」を交換するため、旧看護専門学校および愛泉寮の建物を解体撤去する。現在、大阪府と八丁畷町住民との新建物建設の意見調整が十分になされていないため、本学が先行して解体工事を開始することができない状態にあり、今後府と住民との話し合いの目処が付いた段階で実施したい。(金額150百万円：平成20年後半～21年度中に実施)

IV. 予算編成の基本方針

1. 基本的な考え方

平成20年度は、関西大学、大阪薬科大学との共同学部の申請の基準年度であること、平成19年3月に(財)大学基準協会から財務に関する勧告を受けたことを踏まえ、単年度での帰属収支差額を収入超過とすること、次年度繰越支払い資金を減少させないことを目標とする。本法人を今後とも末永く維持するために財政基盤の磐石化を目指し、本年度は投資を大幅

平成20年度 事業計画及び予算の概要

に抑制し、経費を削減すると共に収入面での最大化を図る。

2. 収入面

学生生徒等納付金は、平成14年度から凍結していた医学科学納金のスライド制の解除による入学時初年度の学納金の増加及び看護専門学校の学納金の値上げ効果がある。

本学の基幹収入である病院の医療収入は、平成20年4月の医療報酬の改定によりDPC係数(調整係数・評価係数)による大幅増収を計上。入院収入については平均在院日数の短縮、病棟の稼働増、手術・検査の効率化、外来収入については地域医療連携の強化、新患者数の獲得などの事業計画の基礎となる条件を確保する。

補助金は、その助成の趣旨等を勘案し、可能な限り申請できる万全の体制を作るが、経常費補助金(一般補助)の調整係数及び圧縮率を勘案し昨年度並みの実績を目指す。

寄付金は、外部資金の積極的な増収を図るため組織の整備を行い、募金推進本部を常置した。募金活動を継続し在職教職員や卒業生を中心に積極的な取り組みを実施する。

資産運用は、昨今の為替の円高傾向を踏まえ、利回りの低下による減収を見込む。

借入金は、平成22年度の開設を予定している関西大学、大阪薬科大学との共同学部の設置のため、借入金付替えの長期借入金を計上した。

3. 支出面

財政基盤を磐石化させるための経費の削減は、最重要課題である。固定費の削減は、人件費の抑制、経常的な購入物品の購入抑制、委託費の削減を目指す。

人件費については現員数を以って雇用人員の上限と看做し、業務委託費を含めた実質人件費の総額を削減する。委託費に含まれる派遣等の役務費及び施設設備等の保守費は、前年度支払い額の2.5%以上減をガイドラインとした。

医療経費は、医療材料費を医薬品、医療消耗品などの効率的使用に努めると共に、ジェネリック薬品への移行を含めて、医療収入経費率を31.5%以下に抑制した。

研究費の支出は、奨学寄附金の間接経費(オーバヘッド10%)の徴収により、研究費の支出抑制を行った。

研究費を除く経常的な支出は、前年度使用実績を基に実額による予算編成を行った。

講座(教室)研究費については、組織機構改革委員会研究費配分に関する最終報告を基に一律配分額と職位配分額を算出した。

予備費については、従来通り3億円を計上した。

V. 平成20年度予算の概要

1. 資金収入

3大資金収入の内『学生生徒等納付金収入』については、平成14年度から学費のスライド制を凍結していた医学科学納金を解除した。

『補助金収入』については、経常費補助金(一般補助)の配分の調整係数表の見直しがあり医学部にとって厳しい内容である。特別補助については、本学の特色を活かしたメニュー化の申請を行い、積極的な補助金の獲得により減収を最小限に圧縮する。

『医療収入』については、平成20年4月の医療報酬の改定によりDPC係数(調整係数・評価係数)が見直され、対前年度予算の6.76%増を計上した。入院平均在院日数の短縮、病棟の稼働増、手術・検査の効率化、地域医療連携の強化、新患者数の獲得などの諸施策の実施、7対1看護体制の維持強化により増収を見込む。

平成20年度 事業計画及び予算の概要

『寄付金収入』については、外部資金の積極的な増収を図るため組織の整備を行い、募金推進本部を常置した。平成20年度は、前年度に引き続き創立80周年記念事業募金に注力することとし、2億円の目標額を見込んだ。

『借入金』は、共同学部設置の為の財政上の認可要件を達成する為、借入金付替え分6億4600万円を計上した。

2. 資金支出

3大資金支出の内『人件費支出』については、給与改訂を定期昇給のみとした。レジデント及び看護師などの雇用計画は雇用の上限とみなし、人件費の増額を前年度の給与改訂差額の同額とした。他方人件費を減少させるためのアウトソーシング(派遣等の役務費及び施設設備等の保守費)は、業務の質の確保と費用対効果を十分検証することが必須の課題であり、予算編成は前年度支払い額の2.5%減を予算化した。

『教育研究経費支出』は、医療材料費を医療収入の31.5%以下に抑制。

『管理経費支出』は、看護師及び研修医賃貸マンションに係る経費を経常的費用として計上した。

3. 繰越支払資金

平成20年度は、諸経費を削減すると共に収入面での最大化を図った予算を編成したが、最低限の支払資金『50億円』の確保はできなかった。

4. 帰属収入

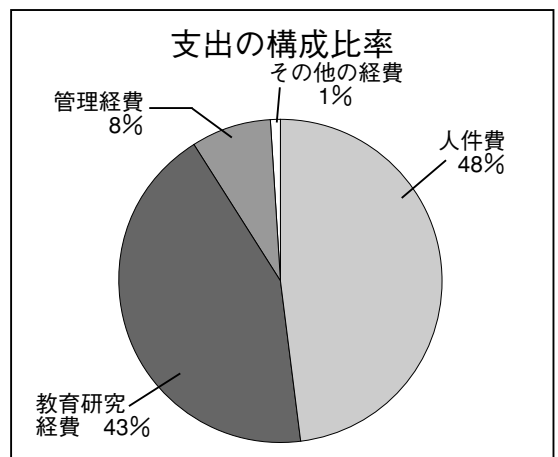
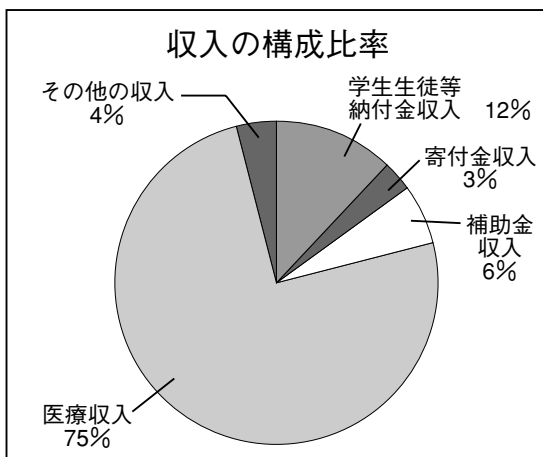
平成20年度予算は、医療報酬改定によりD P C係数(調整係数・評価係数)による大幅増収により対前年度予算の3.7%増を計上した。補助金の獲得については、本学の特色を活かしたメニュー化に対し積極的な申請を行う。

5. 消費支出

消費支出については、短期間に政策変更が難しい人件費や教育研究経費の増加、施設設備の更新・拡充事業により減価償却額の増加が収支を圧迫してきている状況にある。平成20年度も消費収入で消費支出を賄えない編制内容である。

6. 帰属収支差額

帰属収支差額については、基本方針のプラス5億円を目標としたが、平成20年度予算では、予備費3億円を未執行とした場合に、ようやくプラス2億円程度の帰属収支差額を計上できる結果となった。



平成20年度 事業計画及び予算の概要

平成20年度 収支予算

消費収支予算

(単位：千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科 目	平成20年度 予算額	平成19年度 予算額	増減(△)	科 目	平成20年度 予算額	平成19年度 予算額	増減(△)
学生生徒等納付金収入	3,445,155	3,454,130	△8,975	人 件 費	13,231,107	13,160,608	70,499
手数料収入	131,562	108,585	22,977	教育研究経費	12,136,585	11,429,425	707,160
寄付金収入	847,000	837,390	9,610	管理経費	2,271,800	2,215,136	56,664
補助金収入	1,767,642	1,767,869	△227	借入金等利息	70,274	105,792	△35,518
資産運用収入	301,330	430,589	△129,259	資産処分差額	14,324	30,100	△15,776
資産売却差額	0	0	0	徴収不能額	23,300	12,140	11,160
事業収入	319,121	433,657	△114,536	予備費	300,000	300,000	0
医療収入	20,801,869	19,485,255	1,316,614				
雑収入	339,078	437,717	△98,639	消費支出の部合計	28,047,390	27,253,201	794,189
帰属収入合計	27,952,757	26,955,192	997,565				
基本金組入額合計	△1,564,800	△3,145,591	1,580,791				
消費収入の部合計	26,387,957	23,809,601	2,578,356	当年度消費支出超過額	△1,659,433	△3,443,600	1,784,167

資金収支予算

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科 目	平成20年度 予算額	平成19年度 予算額	増減(△)	科 目	平成20年度 予算額	平成19年度 予算額	増減(△)
学生生徒等納付金収入	3,445,155	3,454,130	△8,975	人 件 費	12,958,547	13,197,676	△239,129
手数料収入	131,562	108,585	22,977	教育研究経費	10,663,965	10,131,425	532,540
寄付金収入	828,000	818,000	10,000	管理経費	2,108,620	2,057,136	51,484
補助金収入	1,767,642	1,767,869	△227	借入金等利息支出	70,274	105,792	△35,518
資産運用収入	301,330	430,589	△129,259	借入金等返済支出	2,434,938	2,011,400	423,538
資産売却収入	0	1,500,000	△1,500,000	施設関係支出	398,197	564,497	△166,300
事業収入	319,121	433,657	△114,536	設備関係支出	752,915	870,052	△117,137
医療収入	20,801,869	19,485,255	1,316,614	資産運用支出	55,500	551,060	△495,560
雑収入	339,078	437,717	△98,639	その他の支出	3,737,222	3,429,349	307,873
借入金等収入	1,646,500	0	1,646,500	予備費	300,000	300,000	0
前受金収入	649,460	647,177	2,283				
その他の収入	4,454,100	4,567,062	△112,962				
資金収入調整勘定	△4,230,222	△4,117,180	△113,042	資金支出調整勘定	△2,944,000	△2,647,404	△296,596
前年度繰越支払資金	3,975,562	4,327,000	△351,438	次年度繰越支払資金	3,892,979	3,288,878	604,101
収入の部合計	34,429,157	33,859,861	569,296	支出の部合計	34,429,157	33,859,861	569,296

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1. 「寄付金」には、資金収支上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
2. 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されているのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
3. 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

学校法人大阪医科大学 格付「A+」を維持

学校法人大阪医科大学は、平成19年12月17日 株式会社 格付投資情報センター（R&I）による格付の審査を受けました。本年2月28日に審査結果が公表されましたのでお知らせします。受審結果は、キャッシュフローの厚みや安定性、負債の大きさなどの観点から、平成19年度も前年度同様「A+」の格付（方向性が「安定的」）を維持継続することができました。「A+」の格付けが得られた理由として、附属病院は特定機能病院として質の高い医療と地域医療の重要な役割を担い、今後も一定の競争力の維持が可能であると評価されたものです。平成19年度決算では帰属収支がプラスに浮上する可能性も評価されました。

これらの評価を得ることができたのも、教職員、同窓、学生保護者等法人関係者の努力の結果と考えております。

平成20年度も法人の収支は、依然として大変厳しい状況が予想されます。平成22年度には、関西大学・大阪薬科大学との共同学部の開設が予定されており、一層の教育・研究及び診療の充実を図ることができるよう財務状況の収支改善を行い、格付け維持・向上ができるよう努力いたします。

入学試験・国家試験状況

■平成20年度入学試験状況

(単位：人)

		志願者数	受験者数	入学者数
医学部医学科		2,152	1,852	103
大学院医学研究科		26	26	26
看護専門学校	推薦	18	18	16
	一般	256	233	66
	合計	274	251	82

■国家試験状況

		受験者 ^(人)	合格者 ^(人)	合格率 ^(%)	全国平 ^(%)	近畿平 ^(%)
第102回 医師国家試験	(総数)	120	104	86.7	90.6	
	(新卒)	102	97	95.1	94.4	
	(既卒)	18	7	38.9	62.2	
第97回 看護師国家試験		80	79	98.8	90.3	90.6

寄付金報告

■創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

〈寄付金申込者〉

平成20年1月1日から3月31日までの間の寄付金入金件数は、64件、金額は32,965,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成20年3月31日までの寄付金入金件数は192件、金額は72,820,000円です。

(順不同・敬称略)

医療法人錦秀会 医療法人景岳会南大阪病院 医療法人社団英明会大西脳神経外科病院
医療法人清恵会 医療法人太田医院 株式会社クラヤ三星堂 株式会社日立ビルシステム関西支社
有限会社すばる印刷 フクダ電子近畿販売株式会社 協和株式会社 日本パナユーズ株式会社
ABC薬局 アイケイファーマシー株式会社 新日本美風株式会社 高槻ホテル開発株式会社
株式会社きんでん 株式会社ニューメディアランド・マツバラ 日本光電関西株式会社
協栄ビル管理株式会社 学部12期生(三八会)

畑中 武志	植村 龍子	福田 善彰	加藤 一博	岡田 元良	岩佐 琢藏	川村 俊
伊原 雅子	松村 實	神谷美佐子	大森 英夫	島田 眞久	植木 實	栗屋 直彦
小高 正裕	上野 浩	宮武 明彦	岩本 暢泰	倉本 進	打橋 健一	辰見 宣夫
成松 正治	市岡 五道	中村満次郎	田原 一也	北畠 義久	梅垣 信夫	樋本 美孝
谷川 泉	橋口 直栄	黒本 成人	段 武夫	大槻 哲彦	松村 摩香	蘆田 晴重

匿名 6件

■大阪医科大学フレンズ会への入会状況について

〈入会者〉

平成20年1月26日から4月10日までの間の入会者数は、114名です。
ここに入会していただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成20年4月10日までの間の寄付金入金件数は186件、金額は4,059,000円です。

(順不同・敬称略)

出坂 秀雄	清金 公裕	西本 泰久	栗山 典久	神谷美佐子	小野恵美子	富成よし子
豊田 瑞恵	大坪喜久代	黒岩 真紀	小林喜美代	池 智代	松本 結香	麻田 規子
鈴江 和枝	秦 八重子	池添 香苗	西 千秋	渡 真紀	小谷 香織	井筒 朝子
林 美幸	大塚 映子	森田 梢	辻 節子	澤田亜利香	森本明日香	北川 豊美
松本 加奈	石田 久美	田中 真矢	林 佳美	愛場佐緒理	水本 志信	山本 恵子
横山 幸子	中越 智子	安田有紀子	伊藤 文子	浅島 有紀	河淵 美加	嶋田 隆行
間曾 啓子	大塚いずみ	熊谷 好恵	中西ツギ子	西村美津子	亀野真奈美	青山 典子
橋本千和子	中山サツキ	村上 三佳	大野 貴子	金江 由香	片山 洋子	渡邊めぐみ
浅井 明美	川上 和美	山田 晃子	江口 博美	石原 美弥	東 典子	三浦由美子
服部 誠子	石垣 由美	村田 朋子	安原久仁子	山口 陽子	松上美由紀	四方 早子
小川 綾	澤井美奈子	林 美加子	杉村 仁美	福富 美樹	樫木 淑恵	西村あかね
久藤久美子	笹井 文子	濱崎 格	岡崎 和子	溝口 美和	荒川 治代	弟子丸信代
由永美智子	村岸 明美	東尾 智美	福 末子	内海美千代	紙谷 信子	高井千登美
石川理津子	岩 ちづる	石原真理子	平野しみず	近藤美和子	松木美紀子	村上 操
岡部きよみ	川合 恵子	満 真帆子	奥田 敬子	大坪 裕之	加納 淳生	平井 智子
長嶺美奈子	池本 敏行	植田 政嗣	原口 浩幸	岩橋 朗	水嶋 泰之	田中 貴広
日野 義信	三宅 努					

※フレンズ会ご入会についてのお問い合わせ

募金推進本部 072-683-1221 (内線2827) または 072-684-7243 (ダイヤルイン)

■教育環境整備寄付金の応募状況について

〈寄付金申込者〉

平成19年10月1日から平成20年3月31日までの間の寄付金入金件数は、1件、金額は2,000,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成20年3月31日までの寄付金入金件数は25件、金額は48,200,000円です。

(順不同・敬称略)

伊藤 良臣

平成20年度科学研究費補助金交付内定

平成20年度科学研究費補助金交付内定について

平成19年11月に文部科学省ならびに日本学術振興会へ応募した191件の新規研究計画に対し新規27件、継続38件の合計65件、総額91,100千円の内定がありました。(平成20年4月11日現在)

研究種目	新規応募件数	交付内定件数		
		新規	継続	合計
特定領域研究	1	0	0	0
基盤研究 (A)	1	0	0	0
基盤研究 (B)	2	0	4	4
基盤研究 (C)	110	12	27	39
萌芽研究	29	2	0	2
若手研究 (A)	1	0	0	0
若手研究 (B)	47	13	7	20
合計	191	27	38	65

(注) 内定時点で退職等により不在の研究代表者の所属・職名は応募時のもの

■基盤研究(B) 一般

(研究課題番号順)

(単位：千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		20年度	21年度	22年度	23年度
新免疫寛容導入法の確立とメトロン遺伝子ゲノム内導入による移植腎永久生着の試み	泌尿器科学 准教授	東 治人	*	4,000	4,100	0	0
プロモーターマイクロアレイを用いた卵巣癌の薬剤耐性化遺伝子の解析	産婦人科学 教授	大道 正英	*	2,200	0	0	0
高性能RFHR・2D・PAGEのヒトプロテオミクス～抗瘍剤抵抗性蛋白を探る	研究機構 嘱託教授	和田 明	*	4,100	4,300	0	0
悪性脳腫瘍に対する硼素中性子捕捉療法の標準治療化と新規開発	脳神経外科学 准教授	宮武 伸一	*	5,800	0	0	0

■基盤研究(C) 一般

(研究課題番号順)

(単位：千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		20年度	21年度	22年度	23年度
前立腺癌骨転移責任遺伝子の同定と組換えHSVによる癌ワクチン治療	泌尿器科学 教授	勝岡 洋治	*	500	700	0	0
婦人科癌における遺伝子多型解析	産婦人科学 非常勤講師	植田 政嗣	*	1,100	0	0	0
網膜・視神経乳頭循環の自動調節能におけるgap結合の重要性と糖尿病による変化	眼科学 講師	杉山 哲也	*	1,100	0	0	0
ヘレニズム哲学におけるアカデメイアとピュロン派懐疑主義の位置づけとその現代的意義	哲学 専門教授	金山萬里子	*	1,000	700	0	0
酵母における2チオ修飾tRNAと鉄硫黄クラスターへの硫黄分配	生化学領域 講師	中井 由実	*	1,600	0	0	0
ストレプトコッカスのバイオフィルム感染関連蛋白質ComAの基質認識機構の解明	生化学領域 講師	石井 誠志	*	1,100	0	0	0
ABCトランスポーターにおけるNBDエンジンの動作メカニズムの解明	生理学 講師	相馬 義郎	*	1,300	1,000	0	0
蝸牛内リンパ腔電位の調節—血管条辺縁細胞のCaチャンネルの役割	生理学 教授	窪田 隆裕	*	1,200	0	0	0
自己抗体結合性非ホジキンリンパ腫特異抗原の同定と診断マーカーの検索	臨床検査医学 准教授	中西 豊文	*	1,300	0	0	0
『車椅子エコノミークラス症候群』の実態調査とその予防対策	内科学 I 講師	木村 文治	*	600	600	0	0

平成20年度科学研究費補助金交付内定

[研究課題番号順]

(単位：千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		20年度	21年度	22年度	23年度
生活習慣病としての慢性萎縮性胃炎および胃がん発生におけるアディポネクチンの意義	内科学Ⅱ教授	樋口 和秀	*	700	700	0	0
GABAの胃癌細胞増殖作用およびその産生酵素の消化器系癌組織における発現様式	解剖学講師	前村憲太郎	*	700	0	0	0
発症直後患者膵組織の解析による劇症1型糖尿病の成因解明	内科学Ⅰ教授	花房 俊昭	*	1,300	0	0	0
劇症1型糖尿病の成因解明－モデルマウスを用いた膵島破壊分子の解析	内科学Ⅰ講師(准)	今川 彰久	*	1,100	0	0	0
早期新生児期における酸素毒性・活性酸素傷害に対する耐性と在胎週数との関連について	周産期センター講師	荻原 享	*	500	0	0	0
色素性乾皮症フェノタイプ多様性と酸化的DNA損傷修復能との関連に関する研究	皮膚科学准教授	森脇 真一	*	1,700	0	0	0
うつ病患者における電気けいれん療法の臨床効果とサイトカイン発現量変化に関する研究	神経精神医学助教	西田 勇彦	*	1,000	0	0	0
ドーパミンと睡眠－覚醒調節：ドーパミン受容体作動薬により生じる睡眠の脳内機構	神経精神医学講師(准)	吉田 祥	*	1,100	0	0	0
移植マウス乳癌におけるリンパ節転移とリンパ管再生	解剖学講師	伊藤 裕子	*	900	0	0	0
siRNAとデコイベクターによるリンパ管新生因子機能喪失と乳癌リンパ節転移阻止	解剖学准教授	柴田 雅朗	*	1,000	0	0	0
重症肺高血圧症に対する一酸化窒素分泌型人工血管の肺動脈位移植術の基礎的検討	胸部外科学教授	勝間田敬弘	*	1,400	0	0	0
脳腫瘍の光線力学診断・治療法の最適化：高効率光源の開発と光感受性物質の分布解明	脳神経外科学講師	梶本 宜永	*	1,000	1,000	0	0
アクロメリン酸A誘導体を用いた神経因性疼痛治療薬の開発	麻酔科学教授	南 敏明	*	800	0	0	0
GABAによる知覚神経節細胞体の興奮性修飾を介した痛み刺激伝達の抑制作用	解剖学講師(准)	早崎 華	*	1,300	0	0	0
卵巣癌におけるイレッサ、アバスタチンの白金製剤耐性解除の検討	産婦人科学講師	寺井 義人	*	900	1,000	0	0
半規管内リンパ液カルシウムとpHの制御(半規管内に結石は生じうるか?)	耳鼻咽喉科学講師	荒木 倫利	*	500	0	0	0
頭頸部扁平上皮癌におけるプロスタグランジン代謝及びその受容体と臨床的意義	耳鼻咽喉科学准教授	河田 了	*	900	0	0	0
メタボリックシンドロームにおける低酸素応答による酸化プロテオミクス	化学・生体分子学講師(准)	境 晶子		1,100	1,500	900	0
発達障害児における不器用の神経基盤の解明：脳機能画像による疾患別の量的・質的検討	高次脳機能発達総合研究講座助教(准)	柏木 充		700	1,300	600	0
網羅的遺伝子発現解析を用いたバクテリアの増殖再開メカニズムの解明	物理学助教	牧 泰史		1,700	1,200	900	0
大腸菌100Sリボソームの構造と形成および解消機構の解明	物理学講師	吉田 秀司		1,600	1,100	1,100	0
メタボリックシンドローム合併症におけるキマーゼの病態生理学的役割	薬理学准教授	高井 真司		1,200	1,100	1,100	0
間質性肺炎合併皮膚筋炎における疾患関連マーカー蛋白の定量プロテオミクスによる探索	内科学Ⅰ講師(准)	武内 徹		1,600	1,000	700	0
死因不詳の突然死症例におけるカルシウム依存性情報伝達物質遺伝子変異解析	法医学教授	鈴木 廣一		1,500	1,400	600	0
免疫抑制せず、オーダーメイドに移植拒絶反応を阻害する薬剤の開発	研究機構専門教授	吉田龍太郎		1,800	900	800	0
中性子捕捉療法及び光線力学的治療双方に利用可能な新規硼素化ボロフィリンの有用性	脳神経外科学助教	川端 信司		2,000	900	700	0
5-ALAと自家蛍光の二重蛍光スペクトル解析による高精度脳腫瘍同定方法の開発	脳神経外科学教授	黒岩 敏彦		1,400	1,000	1,000	0
ヒト軟骨系腫瘍におけるGABAシステムを用いた新たな鑑別診断法と治療法の確立	解剖学講師(准)	神原 清人		1,600	1,000	1,000	0
花粉曝露室を用いたスギ花粉症誘発の病態解明	耳鼻咽喉科学教授	竹中 洋		2,200	1,200	200	0

平成20年度科学研究費補助金交付内定

■萌芽研究

(研究課題番号順)

(単位：千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		20年度	21年度	22年度	23年度
質量顕微鏡によるアミロイド組織内沈着分子プロフィール異常と線維形成阻止法の開発	名誉教授	清水 章		2,400	900	0	0
3種抗体、および、レンチウイルスを用いた移植腎生着延長の試み	泌尿器科学准教授	東 治人		1,500	1,700	0	0

■若手研究(B)

(研究課題番号順)

(単位：千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		20年度	21年度	22年度	23年度
NMDAおよび虚血による緑内障モデルに対するジアゾキサイドの神経保護効果	眼科学非常勤講師	奥野 高司	*	1,200	0	0	0
移植拒絶反応：自然免疫系細胞で誘導される、移植抗原に対する新規受容体に関する研究	生理学講師(准)	山路 純子	*	800	800	900	0
速度論および構造解析に基づく酵素触媒反応におけるプロトントンネリング機構の解明	生化学領域助教	村川 武志	*	1,200	1,100	0	0
劇症1型糖尿病患者血清の解析による新規インスリン様分子の同定	内科学I非常勤医師	三柴 裕子	*	1,200	0	0	0
修復不能な肩腱板断裂の新たな手術法の開発：骨頭上方移動を制御する肩関節包再建術	整形外科科学助教	三幡 輝久	*	200	0	0	0
ミュラー細胞におけるコラーゲン産生と特発性黄斑円孔の病態に関する基礎研究	眼科学助教	佐藤 孝樹	*	900	900	0	0
IFN- γ KOマウスでの脱毛とIFN- γ および同種移植による発毛の分子機構の解析	形成外科学非常勤講師	岡田 雅	*	600	600	0	0
読み書き障害児に対する効果的な書字学習法の検討—認知神経科学的アプローチ—	小児科学非常勤教員	橋本 竜作		1,200	1,400	0	0
選択的プロテオミクスを用いた関節液中タンパク解析による関節炎診断マーカーの探索	臨床検査医学助教	田伏 洋子		1,000	700	0	0
難治性急性前骨髄性白血病における新規レチノイド化合物の分化誘導機構の解明	小児科学助教	井上 彰子		1,100	1,200	800	0
脳質周囲白質軟化症におけるオリゴデンドロサイトの細胞内酸化還元電位	周産期センター助教(准)	平 清吾		1,100	700	0	0
脳室周囲白質軟化症発症へのプロゲステロンの関与とその抑制効果について	周産期センター助教(准)	山岡 繁夫		2,100	500	0	0
骨髄間質幹細胞を用いた錐体神経細胞分化誘導と、脳梗塞に対する移植再生治療法の開発	脳神経外科学助教	野々口直助		1,900	1,400	0	0
脱シアラ化短半減期エリスロポイエチン誘導体を用いた中枢神経再生治療法の開発	脳神経外科学非常勤医師	三木 義仁		1,100	1,000	500	500
脳腫瘍治療前後の拡散強調像を用いた画像解析による早期治療効果判定の有用性	脳神経外科学助教	山田 佳孝		1,900	1,300	0	0
診断治療薬同時包埋リボソームによる悪性脳腫瘍に対する治療効果改善に関する研究	脳神経外科学助教	池田 直廉		2,100	1,100	0	0
自然免疫による移植片拒絶機構について	泌尿器科学助教	能見 勇人		1,900	1,200	0	0
免疫グロブリンBCL 6 転座キメラ転写産物の定量測定による悪性リンパ腫の予後判定	耳鼻咽喉科学講師(准)	李 昊哲		1,500	1,100	0	0
慢性副鼻腔炎における好酸球性炎症に対するプロスタグランジンD ₂ の役割	耳鼻咽喉科学非常勤医師	兵 佐和子		1,200	1,100	0	0
安全で高性能な毛髪付複合型培養皮膚の開発に関する実験的研究	形成外科学非常勤講師	藤森 靖		900	500	0	0

研究助成金等

研究助成金等について

■平成20年度生体超分子構造解析ビームライン共同利用実験課題（共同研究員）[大阪大学蛋白質研究所]

研 究 課 題 名	所属名・職名・氏名
酵素反応の多次元自由エネルギー解析 (Multi-dimension free energy analysis of an enzyme reaction)	生化学（生化学領域）・ 助教・村川 武志

■平成20年度採用分日本学術振興会特別研究員（PD）[独立行政法人日本学術振興会]

研 究 課 題 名	特別研究員氏名	受入研究者（所属名・職名・氏名）
読み書き障害児に対する効果的な書字学習法の検討—認知神経科学的アプローチ—	橋本 竜作	小児科学・教授・玉井 浩

■平成20年度日本小児栄養研究会 研究助成 [日本小児栄養研究会]

研 究 課 題 名	所属名・職名・氏名	助成金額
癌細胞株におけるビタミンEによる アポトーシス誘導機構の解析	小児科学・助教・井上 彰子	50万円

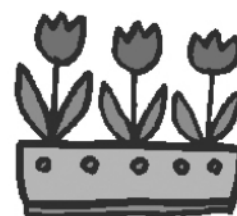
■平成19年度腎疾患研究助成 [財団法人大阪腎臓バンク]

研 究 課 題 名	所属名・職名・氏名	助成金額
マクロファージ除去によるラット同種異系移植腎の 拒絶抑制（急性、慢性拒絶反応の克服をめざして）	泌尿器科学・助教・能見 勇人	50万円

（採択は平成19年3月）

※研究協力課から手続き（申請・機関承認等）を行った公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。

研究協力課へ掲載依頼の情報提供があったものを含めています。



平成19年度 大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰（藤田賞）の表彰



標記の授賞が、消化器内視鏡センター 森田英次郎医員に決定し、その授賞式が平成20年3月5日（水）の診療科長会の場で行なわれました。

科長会にご出席の方々からの祝福の中、森田先生に表彰状と金一封が授与されました。

平成20年度の顕彰については、本年の秋頃に募集を予定しておりますので、奮ってご応募ください。

優秀論文賞受賞 耳鼻咽喉科学教室 乾 崇樹助教（准）

平成20年3月26日、日本生理学会・細胞と分子生理の集い・上皮膜研究グループ平成19年度JPS優秀論文賞を受賞されました。

論文名

Physiological Role of L-Type Ca²⁺ Channels in Marginal Cells in the Stria Vascularis of Guinea Pigs.



第3回（平成19年度）鈎奨学基金受賞式

日 時： 平成20年4月23日（水）午前10時～

場 所： 総合研究棟12階 応接室

『鈎奨学基金研究助成賞』

予防・社会医学講座 微生物学教室

助 教 員 紅

『鈎奨学基金学術奨励賞』

平成19年度第4学年 伏脇 雅美

平成19年度第5学年 岸田 夏枝



第2回（平成19年度）伊藤奨学基金授与式

日 時： 平成20年4月23日（水）午前10時～

場 所： 総合研究棟12階 応接室

平成19年度第1学年 平松 敦

平成19年度第2学年 宮野 亮

平成19年度第5学年 坂谷 彰彦



給付奨学金支給特待生 平成19年度提供講座実績報告

平成19年度 大阪医科大学給付奨学金支給特待生

平成19年度大阪医科大学給付奨学金支給特待生は、下記のとおりです。

第6学年	石田 貴昭	大場 彦昭	中林 ゆか	
第4学年	稲葉 惟子	里見 英俊	西村 歩	
第2学年	赤松加奈子	阿部 由督	根来 孝義	
第1学年	中村 善胤	安永 元樹	鈴木 雅貴	小林 雅子
	児玉 紘幸	島 紘子	上田帆悠里	黒田実紗子
	尹 純奈	根元栄美佳		

■平成19年度提供講座（「医療をとりまく社会環境」）実績報告

平成19年度カリキュラムの中で提供講座（「医療をとりまく社会環境」）を以下スケジュールで開講しました。

- ・対象は第4学年、1月2コマ（通算0.5単位）の必須講義
- ・野村證券（提供元）からの講師派遣（特別講師）、所属講座は教育センター

講座名	人口減少に挑む日本	健康ビジネス業界トレンド	医療関連ベンチャービジネス	医療経営への提言	宗教と伝染病
開講日	平成19年10月10日(水) 13:00-14:00 14:10-15:10	平成19年10月17日(水) 13:00-14:00 14:10-15:10	平成19年11月21日(水) 13:00-14:00 14:10-15:10	平成19年12月12日(水) 13:00-14:00 14:10-15:10	平成20年1月16日(水) 13:00-14:00 14:10-15:10
講義場所	臨床第一講堂	臨床第一講堂	臨床第一講堂	臨床第一講堂	臨床第一講堂
講師氏名 (フリガナ)	西澤 隆 (ニシザワ タカシ)	大川 耕平 (オオカワ コウヘイ)	鍵本 忠尚 (カギモト タダヒサ)	森川 富昭 (モリカワ トミアキ)	三宅 善信 (ミヤケ ヨシノブ)
受講 学生数	95名	94名	94名	95名	95名
現職	野村証券金融経済 研究所経済調査部 次長兼経済解析課 長	株式会社 スポル ツ 代表取締役社長	株式会社 アキュ メンバイオフィア ーマー代表取締役社 長	徳島大学医学部・ 歯学部付属病院 医療情報部 副部 長	IARF（本部オッ クスフォード）国 際評議員 金光教 泉尾教会 総長

■患者サービス向上委員会の取り組み

看護部 安原 久仁子

医療を取り巻く環境が著しく変化している現在、病院経営の戦略の一つとして顧客満足度の向上は重要な位置であると考えられます。

当院では、平成16年の病院機能評価を契機にして、まず同年4月に接遇小部会を発足させ、9月1日に患者サービス向上委員会を設立しました。私は病院長から委嘱状を受けて、平成18年度より患者サービス向上委員会の委員を務めさせて頂いております。この委員会は各部門より17名の委員が選任され、患者様の満足度の向上を目指し、信頼され選ばれる病院となるよう取り組んでいます。毎月の定例委員会では、主に院内に設置されている【ご意見箱】に寄せられたご意見の内容を検討し、ハード、ソフトの両面から患者様に対して情報の提供を行うとともに、アメニティの快適性、利便性という面の日常対応も含めた患者様の満足度を追求しています。

ハード面では、皆様もご存知のように、旧病棟の改装工事・外来棟の改装・案内表示・絵画や植木の設置・温冷配膳車の導入など数々のことを提案して取り組みました。ソフト面ではその一つが接遇であり、接遇はまず‘身だしなみ’と‘挨拶’であると考え、接遇マニュアル冊子を作成して全職員へ配布すると共に朝の挨拶運動を続けています。挨拶運動は、全部署・全科の協力のもと朝8時から30分間、輪番制で行っています。この時間帯は挨拶ばかりでなく、初診患者様の診察手順や再来患者様の再来機使用方法の説明等、細かな対応や気配りが必要となるため、挨拶運動を通して患者サービスに繋がるよう努めています。この挨拶運動は職員間の挨拶にも



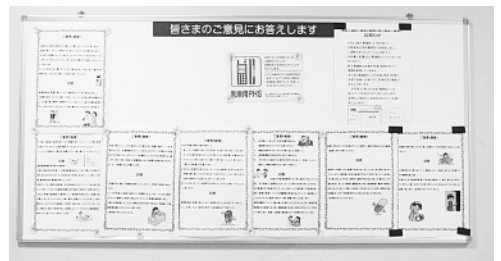
役立っていると思います。

その他、年に一回の病院顧客満足度調査や委員会主催の特別講演会の開催など、職員の接遇意識の向上にも力を入れております。ご意見箱は各病棟と玄関に設置しており、毎週金曜日に回収して委員会で検討・改善に取り組んでいます。その結果は、ご意見箱の回答として外来の掲示板に掲示するようにしました。掲示板は患者様やご家族様がよくご覧になられ、ご意見の中には感謝・励ましの意見も多くなっています。ご意見箱の回答につきましては、現場の責任者をはじめ皆様のご協力のもと回答をしてお



ります。今後も宜しくお願い致します。

これからの病院は、患者様とご家族に選ばれる病院として信頼されなければなりません。今後も病院理念を基に現状に甘んじることなく、検討・改善を重ね顧客満足度の向上を目指し活動していきたいと思っております。



■韓国全北大学医学部学生の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成20年1月21日、22日の両日、韓国全州（チョンジュ）市にある国立全北大学医学部学生5名（第1学年、羅昌柱君、白知勳君、孫晩起君、梁東珍君、崔昇敏君）が、韓国人材育成事業BK21プロジェクトの支援を受けて、本学で研修を受けました。

21日の午前中は本学図書館、新講義実習棟、歴史資料館などの見学、午後は佐野校長による看護学校の案内、花房副院長、島原教授による7号館など附属病院見学、植木学長への表敬訪問などが行われました。

翌22日は本学の連携病院である北摂総合病院で木野院長らによる研修指導が行われ、夕方より本学国際交流部の河野由佳子さん（5年生）ら学生との交流会が催されました。

韓国ではアメリカ式教育課程を採用しているため、医学部入学の前に4年制大学（主として理工系）で一般教育を受けており、医学部は4年間の専門科目のみの課程（大学院大学）となっています。また今回来学した学生は全員が大学卒業後、2年間の徴兵を受けたのちに医学部に入学しているため、平均年齢も高く28歳でした。

どの学生も大変礼儀正しく、優秀で、また機会を見つけては熱心に質問しメモをとる姿や真面目な態度に、今回指導していただいた先生方も大変感心されていました。

彼らの本学の設備や教職員に対する感想はとても良く、卒業後に本学大学院への入学を希望する学生すらいたほどでした。

今回の研修をご指導いただいた教職員各位に改めて御礼申し上げます。

（以下、崔昇敏君よりの手紙）

Dear Sirs,

First of all, I deeply appreciate to your treatment from the bottom of my heart. We experienced what we want to do through your thoughtful consideration. It is the best and unforgettable experience that I can not have by money in my life. It was very impressive for OMC professors being busy to guide and take heartwarming hospitality for us. Especially thank Prof. Kono, Prof. Sano, Prof. Hanafusa, Prof. Shimahara and Ms. Imao who controlled all our schedules. After coming back to Korea, I told my classmates what I did in Japan. They envied me those valuable experiences. And I also conveyed the things that I saw, heard, and felt to Prof. Kim Sun Hee. She said that it was very impressive and expressed thanks to you.

Your school's facilities and education programs for students are very high level as long history of your school. They have taught us a lot of things that we should learn. So, a few days ago, we had the time that we present those things to professors and students in my school. Presentation's contents are OMC's effort forward global medical school, infra-systems and good facility for students and your kindness, and then, our team was awarded for presentation.

I will remember the good time with kind professors and students in OMC. I have received good feeling about Japan and Japanese through you, and I have a mind to visit to Japan again and to learn more culture. If it is possible, when I go to Japan, I wish to meet you.

Lastly, I hope that OMC is the best medical school not only in Japan but also in the world.

2008.2.28

Choi Seung-Min



78病棟パントリーにて
左より河野教授、花房教授、澤井師長、
社会福祉法人一會 介護老人保健施設ローズ 洪先生、
孫晩起さん、梁東珍さん、白知勳さん、崔昇敏さん

中国上海市第六人民医院奉賢分院の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成20年2月27日、日中医学交流センターの依頼により、中国上海市第六人民医院奉賢分院の方梅華医務科家長ら7名の医師団が本学にて研修を受けられました。同病院からの本学訪問は今回で3回目となり、これまでの研修と同様、花房副院長、島原教授らによる病院での研修や大学キャンパスの見学、植木学長への表敬訪問など時間の許す限りのスケジュールでした。一行は本学諸施設の充実ぶりや、看護師ら職員の温かい対応に感嘆されていました。

今回の研修に際しご協力いただきました教職員各位に改めて感謝申し上げます。



大阪医科大学と中国医科大学の国際交流協定の締結について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成20年3月6日、中国医科大学の趙群学長、同大学国際交流センター潘伯臣副所長、日本語学王禾教授を迎えて交流協定の調印式が行われました。

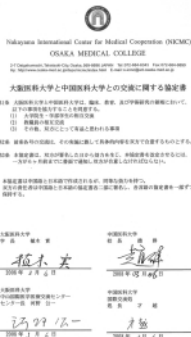
中国医科大学は中国東北部、遼寧省の省都瀋陽にあり、第二次大戦後間もなく旧満州医科大学の敷地に同大学をベースにして設立された、中国屈指の医科大学です。わが国にも同大学の卒業生は数多くおられ、本学の原亨元第一内科教授や三浦運一元非常勤教授（京大教授）もかつて同大学で教鞭をとられていたこともあり、わが校とも深いつながりがある大学です。また現在本学公衆衛生学教室に孫大学院生が留学中です。

調印式は本学国澤理事長とセンター運営委員の黒岩教授、島原教授らの同席により行われました。協定書は2通（それぞれ日本語と中国語で）作成されその内容は、学部学生、大学院生および教職員の相互交流に関する大学間の覚書と、学生の短期病院研修などの具体的交流に関する覚書からなっています。

趙学長らは翌3月7日の本学卒業式にも参列され、また謝恩会では海外の交流大学を代表して、卒業生へ



調印式
前列 国際交流処副処長 潘伯臣様、國澤理事長、中国医科大学学長 趙群様、河野教授、日本語教室教授 王禾様
後列 日露財団小川氏、島原教授、黒岩教授、白田准教授、公衆衛生学教室大学院生 孫焯さん



中山国際医学医療交流センター

の祝辞を述べていただきました。一行は3日間の短い滞在でしたが、本学諸施設の充実ぶりには驚いておられ、現在進行中の同大学新キャンパス建設計画に大いに参考になると述べておられました。

今後、協定書の締結を機会に両大学の医学交流がますます盛んになることが期待されます。



大学謝恩会にて
左より国際交流処副処長 潘伯臣様、中国医科大学学長 趙群様、植木学長、日本語教室教授 王禾様

■上海市浦東新区衛生局の訪日団来訪について

中山国際医学医療交流センター運営委員 黒岩 敏彦

平成20年3月5日（水）、上海市浦東新区衛生局の訪日団が、浦南病院国際医療部の日本語の堪能な脳外科医である夏 寒松先生の引率により本学を訪れました。

総勢19名で、外来、病棟、図書館、研究室、医薬分業の状況などを見学され、中山国際医療交流センターより、Attendance Certificateの授与が行われました。



■デラウェア大学教授来訪について

教育センター長 米田 博

平成20年3月10日、デラウェア大学副学長George H. Watson教授が来校し、PBLチュートリアル教育、ことに少人数の教員による手法の講演を行っていただきました。また中山国際医学医療交流センターよりVisiting Professorの称号を贈呈いたしました。



デラウェア大学教授来訪
左より 河野教授、米田教授、Prof.George H. Watson

■中国(北京)出張記 —中日友好医院での出張手術と友好関係のさらなる発展へ—

消化器外科 准教授 奥田 準二

ちょうど5年前の2003年3月9日に上司の谷川允彦教授と一緒に大連に招かれて腹腔鏡下大腸癌手術を行って以来、中国には毎年3～4回招かれて依頼手術、公開手術の名目での大腸癌に対する腹腔鏡下手術に加えて同手術の講演も行ってきました。これまでに、大連、北京、重慶、廈門、瀋陽、上海、香港や内モンゴルなどに10数回招かれましたが、北京の中日友好医院には本学の衛生学・公衆衛生学教室の河野公一教授がセンター長をされています中山国際医学医療交流センターとの交流関係のもとに、2004年6月27日に初めて招かれました。このときは、中山国際医学医療交流センター運営委員をされ

ている解剖学教室の大槻勝紀教授と当科の谷川教授とともに、遠隔医療を含む腹腔鏡下手術に関する講習を目的に中日友好医院に招かれて公開手術と講演を行いました(本学ホームページの中山国際医学医療交流センターの実績：<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/nicmc/results/index.html>参照)。その後も同院で手術や講演を行ってきましたが、今回は本年2月に突然、腹腔鏡下大腸癌手術の依頼の電話がありました。当院での手術予定も詰まっていたので、土日での一泊二日の出張手術なら可能と返事をしましたところ、それでOKとのことでした。このため、3月8日(土)午前発の便で急遽北京入りし、同日午後から同院にて手術となりました。ただし、今回の患者さんは同院のVIPであったこともあり、私の友人で中国の腹腔鏡下手術の第一人者である上海の鄭教授と一緒に行いました。なお、当日は北京の大学医学部に在学中の日本人学生も見学に来ていました。中国の大学医学部に日本人学生がこんなに在籍し



ているとは全く知らなかったのと彼らの流暢な中国語にも驚かせられました。手術後に楽しく話をすることもできました。彼らも腹腔鏡下手術に大変興味を持っており、中国で外科医となって頑張りたいと感じました。また、翌週月曜日の当院での外来や手術のスケジュール上、翌日の日曜日には帰国しなければならなかったのですが、同日(土曜日)の夜は中日友好医院の副院長や外科の先生たちと楽しいひとときを過ごせました。今後は、中山国際医学医療交流センターを中心にして中日友好医院との更なる友好関係の発展に寄与できれば幸いです。



平成19年度 第Ⅲ回 学位記授与式

日 時： 平成20年 3月24日(月) 14:00～

場 所： 別館講堂 (階段教室)

大学院医学研究科修了者(甲)…20名

論文提出者(乙)…………… 3名



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第787号	朝隈 光弘	Graft Selection Algorithm Based on Congestion Volume for Adult Living Donor Liver Transplantation (成人間生体肝移植における鬱血領域に基づいたグラフト選択アルゴリズム)
甲第788号	石崎 英介	Correlation between angiotensin-converting enzyme, vascular endothelial growth factor, and matrix metalloproteinase-9 in the vitreous of eyes with diabetic retinopathy (糖尿病網膜症眼の硝子体中におけるアンジオテンシン変換酵素と血管内皮増殖因子、マトリックスメタロプロテアーゼ-9の相関)
甲第789号	石田 久美	Role of chymase-dependent matrix metalloproteinase-9 activation in mice with dextran sodium sulfate-induced colitis (マウスDSS誘発腸炎におけるキマーゼ依存性MMP-9活性化の役割)
甲第790号	伊藤 讓	Convenient Use of Accelerometer for Gait Analysis (歩行分析における加速度計の有用性)
甲第791号	稲田 悠紀	Body diffusion-weighted MR imaging of uterine endometrial cancer: is it helpful in the detection of cancer in nonenhanced MR imaging? (子宮内膜癌における拡散強調MR画像-拡散強調MR画像は非造影MRIにて癌の同定に有用か?)
甲第792号	乾 崇樹	Physiological Role of L-Type Ca²⁺ Channels in Marginal Cells in the Stria Vascularis of Guinea Pigs (モルモット血管条辺縁細胞に存在するL型Ca ²⁺ チャネルの生理的役割)
甲第793号	井上 拓也	Therapeutic effect of nimesulide on colorectal carcinogenesis in experimental murine ulcerative colitis (マウスDSS誘発結腸癌モデルに対するCOX-2選択阻害剤の影響)
甲第794号	大槻 周平	Hyaluronic Acid and Chondroitin Sulfate Content of Osteoarthritic Human Knee Cartilage: Site-specific correlation with weight-bearing force based on femorotibial angle measurement (変形性膝関節症における軟骨内ヒアルロン酸およびコンドロイチン硫酸濃度：大腿脛骨角に基づく荷重との関係)
甲第795号	大西 益美	細胞内Cl⁻濃度変化によるモルモット胃幽門腺粘液開口放出の修飾 (Modulation of exocytosis in guinea pig antral mucous cells by intracellular Cl⁻ concentration)

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第796号	金澤 秀次	Diffusion-weighted MR Imaging for Transitional Cell Carcinoma of the Urinary Bladder: ADC Values among Tumor Histologic Grades (膀胱移行上皮癌における拡散強調画像、-病理組織学的異型度におけるADC値について-)
甲第797号	金本 高明	Preoperative Evaluation of Local Invasion and Metastatic Lymph Nodes of Colorectal Cancer and Mesenteric Vascular Variations Using Multidetector-Row Computed Tomography Before Laparoscopic Surgery (マルチスライスCTを用いた腹腔鏡下大腸癌手術の術前評価、-深達度、リンパ節転移、血管走行について-)
甲第798号	可児佳代子	HMG-CoA Reductase Inhibitor, Pitavastatin, Prevents Migration of Cultured Smooth Muscle Cells by Suppressing Myosin Light Chain Phosphorylation (HMG-CoA還元酵素阻害剤ピタバスタチンは培養平滑筋細胞においてミオシン軽鎖のリン酸化を抑制することにより細胞の遊走を阻害する)
甲第799号	米田 浩二	Significance of chymase-dependent angiotensin II formation in the progression of human liver fibrosis (ヒト肝硬変進展におけるキマーゼ依存性アンジオテンシンII産生機構の重要性)
甲第800号	澤木 秀明	A renoprotective effect of low dose losartan in patients with type 2 diabetes (2型糖尿病患者における低用量ロサルタンの腎保護効果)
甲第801号	新保 大樹	Effects of sivelestat sodium hydrate on the reduction of radiation pneumonitis (好中球エラスターゼ阻害剤による放射線肺障害の軽減に関する実験的研究)
甲第802号	高城 武嗣	Phenotypic Analysis of Vertigo 2 Jackson Mice with a <i>Kcnq1</i> Potassium Channel Mutation (<i>Kcnq1</i> カリウムイオンチャンネル遺伝子変異マウス (vertigo 2 Jackson mice) の表現型解析)
甲第803号	中明 剛史	Use of Model Analysis for Study on Jaw Bone Morphology in Patients with Obstructive Sleep Apnea Syndrome (モデル分析による閉塞型睡眠時無呼吸症候群患者の顎骨形態に関する研究)
甲第804号	藤原美智子	Combination of Octreotide and Oral Glucose Maintains the Blood Glucose Level and Improves Survival Rate in Rats after Monochloroacetic Acid Exposure (経口グルコース投与によるモノクロロ酢酸中毒の実験的治療法: オクトレオチド併用が血糖値維持と生存率改善に与える効果について)
甲第805号	松村 英樹	Protective effect of radical scavenger edaravone against puromycin nephrosis (ピューロマイシン腎症ラットに対するラジカル消去薬エダラボンの保護作用)
甲第806号	向井 規子	Identification of phosphotyrosyl proteins in vitreous humours of patients with vitreoretinal diseases by sodium dodecyl sulfate-polyacrylamide gel electrophoresis/Western blotting/matrix-assisted laser desorption time-of-flight mass spectrometry (SDS-PAGE/ウエスタンブロット/マトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法による網膜硝子体疾患患者硝子体中チロシンリン酸化タンパク質の同定)
乙第1055号	日浦 正仁	Performance of a semi-quantitative whole blood test for human heart-type fatty acid-binding protein (H-FABP) (全血中ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白検査の半定量的判定の正確度)
乙第1056号	後藤 昌弘	Epidermal Growth Factor Receptor is a Possible Predictor of Sensitivity to Chemoradiotherapy in the Primary Lesion of Esophageal Squamous Cell Carcinoma (食道扁平上皮癌に対する化学放射線療法治療効果予測因子としての上皮細胞成長因子受容体(EGFR)の検討)
乙第1057号	赤木 弘之	Evaluation of Thallium-201 SPECT/MRI Image Fusion in the Postoperative Follow-up of Gliomas (神経膠腫の術後経過におけるTl-201 SPECT/MRI融合画像の評価)

LDセンター活動報告

LDセンター主催講演会



平成20年1月29日(火) 10:00~12:00 大阪医科大学 LDセンター
『子どもの「読む」力「書く」力の理解とその指導』基礎編
～学習の基礎力を伸ばすには～
講師：水田 めくみ 先生 (大阪医科大学LDセンター 言語聴覚士)

平成20年2月9日(土) 10:00~16:00 大阪医科大学 新講義実習棟
『視覚能力のアセスメントとトレーニングについて』ワークショップ (指導者対象)
講師：奥村 智人 先生 (大阪医科大学LDセンター オプトメトリスト)
三浦 朋子 先生 (パームこどもクリニック)

平成20年3月8日(土) 10:00~16:00 大阪医科大学 新講義実習棟
【2007年度 第3回】
『軽度発達障害アセスメント研修会』
～WISC-Ⅲ知能検査の実施と解釈を中心に～
講師：山田 充 先生 (堺市日置荘小学校教諭)
西岡 有香 先生
(大阪市教育委員会 言語聴覚士)
栗本奈緒子 先生
(大阪医科大学LDセンター 言語聴覚士)



平成20年3月15日(土) 13:00~16:30 大阪医科大学 看護学校ホール
『特別支援教育へのヒント』～少年院の実践から～
講師：竹田 契一 先生 (大阪医科大学 LDセンター顧問)
向井 義 先生 (瀬戸少年院 法務教官)



LDセンター活動報告

2008年度 講習会・研修会（月日順）予定表 年間のテーマ「幼児期の発達障害：早期発見と早期からの対処」

月日	曜	講演内容	講師名	時間
5月30日 10月31日	金	見る／聞くの理解と指導 ①②	栗本奈緒子	10:00～12:00
6月30日 1月30日	月 金	読む／書く力の理解とその指導 ①②	水田めぐみ	
5月17日	土	発達障害の早期発見のポイントと対応 ～幼稚園・保育園で見つかる発達障害のサイン～	竹田契一 里見恵子 秋元壽江	13:30～17:00
5月24日	土	発達障害の子どもにもみられる視覚能力の問題とその指導 基礎編 ～見る力の弱さに気づくために～	奥村智人	13:30～16:30
5月31日	土	ダウン症の子どもへの対応～幼稚園・保育園での生活援助の方法～ ①姿勢と生活での配慮	玉井浩 玉井るか	13:00～14:40
		②偏平足と靴の選び方、お日さまとの上手な付き合い方 ③ことばの発達と園での指導のポイント	里見恵子 河内清美	14:55～17:00
6月28日	土	高機能広汎性発達障害のIEPの作成	落合由香 西岡有香 水田めぐみ	10:00～16:00
		第1回 発達障害のアセスメント研修会 ～WISC-III知能検査の実施と解釈を中心に～	山田充 谷川友子 栗本奈緒子	10:00～16:00
		発達障害の子どもにもみられる視覚能力の問題とその指導 実践編（1） ～見る力に弱さを持つ児童のアセスメント～	奥村智人 中村桂子	13:30～16:45
7月12日	土	アメリカにおけるIEPとは 個別の教育支援計画作成へのヒント：保護者との交渉術	バーンス亀山 竹田契一	10:00～16:00
7月19日	土	子どものことばが気になったら ～乳幼児期のことばの発達とそれぞれの 時期に応じた家庭や園での具体的な働きかけ～	中川信子	13:30～16:30
		発達障害の子どもにもみられる視覚能力の問題とその指導 実践編（2） ～視覚に弱さを持つ児童への配慮とトレーニング、教育現場での実践～	奥村智人 少徳仁 横場政晴	13:30～16:45
8月2日	土	今、中学校の現場では ～発達障害と非行にどう対応すればよいか～	品川裕香 後野文雄	13:30～16:45
		発達障害や遅れの子どもの行事への取り組み ～運動会を中心に～	里見恵子 秋元壽江 岡田佐和子	13:30～16:45
8月4日	月	読み書きの評価と指導法 音韻性読み書き障害の評価と指導・意味や読解に困難をもつ子どもの理解	村井敏宏 西岡有香	10:00～16:00
8月23日	土	認知に偏りのある子どもへの算数の評価と指導法 課題分析から個別の課題設定へ	山田充 今村佐智子 栗本奈緒子	10:00～16:00
		1事例によるアセスメントと個別の指導計画の作成研修	米田和子 西岡有香 水田めぐみ	10:00～16:00
8月30日	土	幼稚園・保育園でのことばの指導 ～毎日できることばかけの具体策とは～	石井喜代香 里見恵子	13:30～16:45
9月より3回	火	ソーシャルスキル低学年（9月9日・10月14日・28日）	西岡有香	10:00～12:00
10月25日	土	読み書き障害のIEP作成	村井敏宏 水田めぐみ 栗本奈緒子	10:00～16:00
		第2回 発達障害のアセスメント研修会 ～WISC-III知能検査の実施と解釈を中心に～	山田充 西岡有香 森田安徳	10:00～16:00
		幼稚園・保育園における 発達障害と遅れのある子どもへの造形への取り組み	里見恵子 秋元壽江 平光登志子	13:30～16:45
11月1日	土	保護者への援助 ～ペアレントトレーニングへの案内～ 子どもの心の声を聞き逃さない ～体にあられる心のサイン 絵は子どもの心のことば～	中田洋二郎	10:00～12:30
			金泰子 藤井昌子	13:30～16:45
11月15日	土	障害のある子どもの家族への援助・・・保護者どう対応するのがよいのか・・・	玉井邦夫	13:30～16:30
12月6日	土	ADHDのIEP作成	米田和子 水田めぐみ 栗本奈緒子	10:00～16:00
12月20日	土	自閉症の「俺ルール」と感覚異常の世界	ニキリンコ 竹田契一 若宮英司	13:30～16:45
1月より3回	火	ソーシャルスキル高学年（1月13日・1月27日・2月10日）	西岡有香	10:00～12:00
1月24日	土	視覚能力のアセスメントとトレーニング ワークショップ	奥村智人 三浦朋子 中村明子	10:00～16:00
		幼児期・小学校低学年のソーシャルスキル ～発達の段階にあわせた指導の実際～	松尾育子 西岡有香	13:30～16:45
2月14日	土	巡回相談・巡回指導からみえてきたこと ～先生の思い、子どもの思い、保護者の願い～	西岡有香 米田和子	13:30～16:45
2月21日	土	リタリン・コンサータはどう違う？ ～効能・法律・副作用など～	若宮英司 高山恵子	13:30～16:45
3月14日	土	2年が経過した特別支援教育の今後の展望	竹田契一 品川裕香 柘植雅義	13:30～16:45

平成19年度卒業証書・学位記授与式

日 時： 平成20年 3月 7日（金） 14：00～
場 所： 新講義実習棟 1階 P101室
医学部医学科卒業生 103名



■平成19年度 卒業式告辞

学長 植木 實

皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。また、ご出席頂きましたご両親様、ご家族の方々もさぞお慶びのことと拝察申し上げます。

本日はご多忙の中ご来臨を賜りました関西医科大学 山下学長、高槻医師会 甲斐会長、仁泉会 植原理事長、本学P A会 丸川治会長を始め、本学 國澤理事長、法人役員並びに元学長、名誉教授の皆様方に厚く御礼申し上げます。

そして、今日は特別のお客様として本学と学術交流を始めます中国有数の医科大学で瀋陽にあります中国医科大学のZhao学長先生、Pan教授並びにWang教授にご出席頂いております。昨日、中国医科大学と大阪医科大学は、学術並びに学生交流の協定書にお互い調印致しましたことを、ここにご報告申し上げます。

Ladies & Gentlemen, I would like to introduce you to our distinguished guests of China Medical University, President Prof. Qun Zhao, Prof. Bochen Pan and Prof. He Wang.

President Prof. Zhao, Prof. Pan and Prof. Wang welcome to Osaka Medical College. Thank you very much for your attendance at our graduation ceremony of Osaka Medical College.

We are pleased to have completed the signing for our academic exchanges including students between China Medical University and Osaka Medical College yesterday.

We very much hope our exchanges will continue forever and develop deeper from now on.

Thanks again for your visit this time.

どうぞ遠来のお客様とご来賓の皆様にも、拍手で感謝の気持ちを表したいと思います。

皆さんの卒業までを振り返りますと、中学・高等学校から医学部を目指して勉強され、大阪医科大学にご入学、この度6年間の学習と研修を済まされて無事卒業されました。

もちろん、青春の長い間、諸君は自分自身、相当な努力をされてきたと思いますが、ご両親、保護者の方々の多大な庇護と愛情、そして先生方、友人、クラブの仲間のお蔭であり、また国の支援もあったことを知ってほしいと思います。このことを今日、改めて認識し、感謝の気持ちを生涯忘れないで頂きたいと思います。

さて、私が最近読んだ本の中で、印象に残った一節をご紹介します。

明治維新の英雄の一人、西郷隆盛は、非情な運命を辿った方ではありますが、彼には非常に多くの心酔者がいました。その西郷が人を惹きつける信条は何かと申しますと、

『我を愛する心を以て人を愛する也』（南州翁遺訓から引用）。また、『己のみを愛することは善からぬことの第一也』とも言っております。修行ができぬも、事の成らぬも、過ちを改むることができぬも、功を伐（ほこ）り、驕慢の生ずるも、皆な自らのみを愛するが為なれば、決して己を愛せぬもの也、と言いつけています。

そうは言いましても、人は自分が可愛い、これは動物の本能であるからです。では、己に打ち勝つ為に西郷はどうしたか、彼は論語の中にある『四絶』を信奉していました。それは『意なく、必なく、固なく、我なし』、即ち、自分勝手な心を持たない、自分が決めた通りにしない、一事に固執しない、我を張らない、という孔子の生き方を学んで、自分のみへの愛に打ち勝つことができたのであります。

今日は皆さんに、人間として、また、医師としても非常に深い意味を持つ『我を愛する心を以て人を愛する也』を贈りたいと思います。

皆さんのこれからの人生は前途洋々で限りなく夢が広がっています。どうぞ大きく羽ばたいて、輝かしい未来へ飛び立って下さい。

そして諸君は、今日、巣立つ大阪医科大学を誇りにし、“大学は皆のもの”という意識を共有しながら、教職員や法人と力を合わせて大学のブランド力をさらに高めようではありませんか。同時に、同窓会の仁泉会会員としての活動も是非お願い致します。

以上の詞をもちまして、皆さんへの門出と致します。

おめでとうございます。



新講義実習棟前にて

平成20年度 新入生学外合宿

平成20年度医学部新入生に対する学外合宿が、京都厚生年金休暇センター「ウェルサンピア京都」(京田辺市)において、新入生103名と教職員約30名の参加のもと、4月7日(月)～4月9日(水)の2泊3日にわたり実施されました。新入生の皆さんは、グループ討論、救急蘇生体験実習、先輩からのメッセージ、懇親会など多彩な日程の中でお互いの親睦を深めました。



平成20年度 職員入職式



平成20年4月1日(火)午前9時30分から臨床第1講堂において、平成20年度の職員入職式が行われ、計151名に理事長から辞令が渡されました。

理事長から、“幸せな人生を送るためには、

1. 自分の仕事を「愛する」こと
2. 仕事に対して「創意」を持ち続けること
3. 忍耐強く仕事に「情熱」を燃やすこと”を挙げ、発明王エジソンのエピソードを例えに、発想転換してクリエイティブな人間になってほしいとメッセージがありました。

■主な行事日程(6月～8月)

- 6月1日(日) 創立記念日
- 4日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
診療科長会
- 10日(火) 理事会
- 11日(水) 大講座教授会
- 12日(木) さつき会
- 18日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 21日(土) 平成20年度第3回市民公開講座
- 22日(日) 第1回オープンキャンパス
- 25日(水) 病院運営会議
- 7月2日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
診療科長会
- 8日(火) 理事会
- 9日(水) 大講座教授会
- 12日(土) 学部夏期休業(8月24日まで)
- 16日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 21日(月) 第2回オープンキャンパス
看護専門学校夏期休暇(8月31日まで)
- 23日(水) 病院運営会議 高槻市大学交流センター
事業「市民講座」
(於:高槻市総合市民交流センター)
- 30日(水) 高槻市大学交流センター事業「市民講座」
(於:高槻市総合市民交流センター)
- 8月6日(水) 診療科長会 高槻市大学交流センター
事業「市民講座」
(於:高槻市総合市民交流センター)
- 8日(金) 看護専門学校オープンキャンパス
- 16日(土) 第3回オープンキャンパス
- 19日(火) 理事会
- 22日(金) 看護専門学校オープンキャンパス
- 23日(土) 教授懇親会
- 27日(水) 病院運営会議

平成19年度 卒業式・謝恩会

平成20年3月6日

看護学科23回生、80名の晴れの卒業式。このクラスは強力な雨女か、雨男がいるのか、入学式を始めとしてことごとく雨・・・、国家試験は大雪でしたが、この日はお天気の神様もお祝いしてか、暖かな春の日差しの穏やかな式になりました。

卒業式では國澤理事長を始め多くの学内外からの来賓をお迎えし、高槻市保健所・所長 土生川様に奥本市長からの祝辞を代読していただき、竹中病院長からも暖かい祝辞をいただきました。答辞では総代が「私たちは今、大きな一歩を踏み出すスタートラインに立っています。夫々が自分の目指す場所へと進むときがきました。この心地よい場所を離れるのは、正直恐いし、不安もいっぱいです。でも私たちは決して一人ではありません。精一杯の思いで過ごした3年間の糧にして、しっかり前を見て自分の足で進んでいくことを誓います。そして辛いときこそ笑顔で、一日一日を大切に生きていきたいと思えます。」と堂々と述べてくれました。

たかつき京都ホテルでの夕刻から謝恩会では、卒業式の白衣姿とは打って変わり、袴あり、振袖ありの晴れやかな変身ぶりでした。お世話になった講師の先生や、看護部長、臨床の指導者の方々と、思い出を語り合ったり、メッセージをいただき、和やかな感謝のひとつときを持つことができました。

1学年80名の初めてのクラスで、運営がどうなるかと心配していましたが、苦しい時、辛い時共に過ごしてきた信頼関係は素晴らしく、協調協働できる素敵なクラスになりました。

看護学校での3年間の基礎看護教育課程を自信にして、一人ひとりの篤い看護への思いを胸に、思い切り羽ばたいてくれることを願っています。



平成20年度 入学式

平成20年4月9日

遠くは五島列島や中部地方から入学となった看護学科26回生、82名（内男子3名）は、看護師になるという一人ひとりの夢を叶えるために、期待と不安に胸を膨らませ、入学式を迎えました。

「人として医療者として社会の期待に応えられる能力育成を目指して努力して欲しい」と来賓の方々から、厚いご祝辞を賜りました。在校生の代表として新2年生からは「私たちも様々な不安もありましたが、この学校で学んでよかったと心から思っています。共に頑張っていきましょう。」と歓迎の言葉ももらいました。

親友生たちの晴れやかな表情はこれからの3年間に向けて、気迫に漲って見えました。



平成20年度 市民公開講座

■第1回

平成20年4月19日(土) 14時～ 臨床第1講堂

『消化器内視鏡の進歩—カプセル内視鏡
・内視鏡治療の最前線—』

講師：内科学Ⅱ 教授 樋口 和秀



『大腸内視鏡検査を受けるときに使う
お薬について』

講師：附属病院薬剤部 小林 豊英



平成20年度 市民公開講座開催予定

回数	開催日	演題	講師	演題	薬剤師
第2回	5月17日(土)	抗ガン剤治療の進歩を知る	化学療法センター センター長 准教授 瀧内比呂也	外来で安全に化学療法を受けて頂くために	薬剤部 後藤 愛実
第3回	6月21日(土)	たかが頭痛、されど頭痛 ～機能的頭痛を中心に～	内科学Ⅰ 講師 木村 文治	頭痛薬との上手なつきあい方	薬剤部 吉川 依里
第4回	9月20日(土)	小児の腹痛	小児科学 講師 余田 篤	腹痛を予防するための工夫—上手な消毒剤の使い方—	薬剤部 中島 桂
第5回	11月15日(土)	皮膚のかゆみの診断と治療	皮膚科学 准教授 森脇 真一	皮膚外用剤(軟膏とクリーム)の違いについて	薬剤部 益森 啓子
第6回	12月20日(土)	在宅における栄養管理—低栄養による肺炎、床ずれ予防のために—	NST委員会 脳神経外科学 助教 山田 佳孝	栄養管理に使用されるお薬について	薬剤部 西村 果純
第7回	平成21年 1月17日(土)	ひざの痛みのお話	整形外科 准教授 中島 幹雄	痛み止めに長く上手に飲んで頂くために	薬剤部 梅本 裕子

平成20年度 高槻市大学交流センター事業 市民講座開催予定

開催日時	講師	演題
7月23日(水) 15:30～17:00	病理学 教授 芝山 雄老	『肝臓の話』
7月30日(水) 15:30～17:00	病理学 准教授 岡田 仁克	『病気の形態学：がんの形からわかること』
8月6日(水) 15:30～17:00	解剖学 教授 大槻 勝紀	『オタマジャクシの尻尾は何故消えるの？ —病気と細胞増殖、細胞死について—』

■平成19年度災害訓練報告

救急医療部 教授 森田 大

2月16日（土）に外来棟1階フロア全体を使って院内災害訓練を実施した。今回は京都府南部にマグニチュード7.2の地震が早朝に発生し、近隣地域で多数傷病者が生じたという想定で行った。

訓練の目的は、本院は大阪府から地域災害拠点病院に指定されていることから、発災時に多くの傷病者の受け入れ準備と同時に救護活動を職員に実践し認識してもらうこと、既存災害対策マニュアルを全面的に見直し現実との整合性を図るためである。

訓練内容は、発災直後の当直職員による初動体制の構築、すなわち災害対策本部、トリアージゾーン、初期診療ゾーンの設営ならびに傷病者へのトリアージ実施、震度5以上で自主登院した職員が加わり初期診療ゾーンでの二次トリアージと初期治療ならびに災害診療録への処置内容記録、災害対策本部への情報集中と管理が主体であった。約190名の訓練参加職員のほかに100余名の見学者が外来棟2階から訓練の様子を眺め次回の出番に備えてくれた。ライフサポート部の医学生、看護学生、事務職員による模擬患者役と高槻市消防本部や中署職員のご協力により重症傷病者の搬送が行われた。事前準備をせずに初動体制構築からの訓練は本院では初めての試みであった。それぞれ新設した部門で想定どおり混乱からくる対応に不備がでたり、各部門間での連携が途絶したり手間取ったりしたが、訓練からえられた経験を生かし問題点を整理しながら一步一步積み重ねて行くことが非常時の大きな力と成り得る。

1 トリアージゾーン

実際の災害時にはトリアージゾーンは原則として病院玄関前の広場に設置する。緑タグは院内へ入れず院外に設置した初期治療ゾーンに収容し簡易処置の上帰宅させるかしばらくの間経過観察する。黄タグや赤タグは院内の所定の初期診療場所へ搬入し初期治療を開始することになる。



トリアージ風景 1



トリアージ風景 2

2 初期診療ゾーン



黄タグの初期診療ゾーン



赤タグの初期診療ゾーン

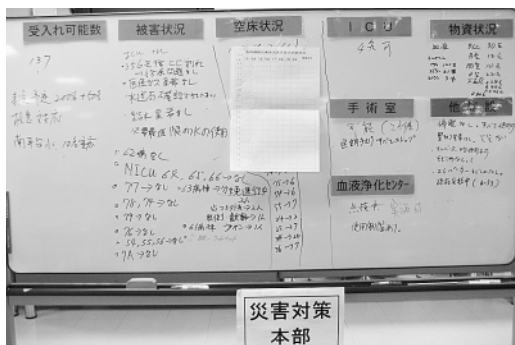
附属病院関係事項

二次トリアージにより治療優先順位を決定し救命処置に取りかかる。災害拠点病院であることから赤タグが集中する。より多くの救命という観点から病院職員のエネルギー投入が求められる部門である。病院の医療限界を超えれば日本DMATにより広域搬送体制を敷くことになる。

3 災害対策本部



災害宣言を行って災害対策本部を設置し、院内の人的・物的被災情報が刻々と集約されホワイトボードに状況が記載される。全体像の把握に必須である。



院内の被災状況が集約されたホワイトボードの一部。

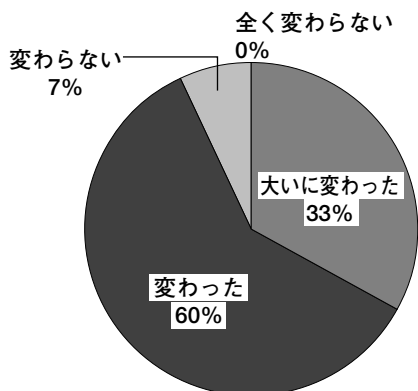


病院長の到着以降、本格的に災害対応策を決定して行く作業に入る。

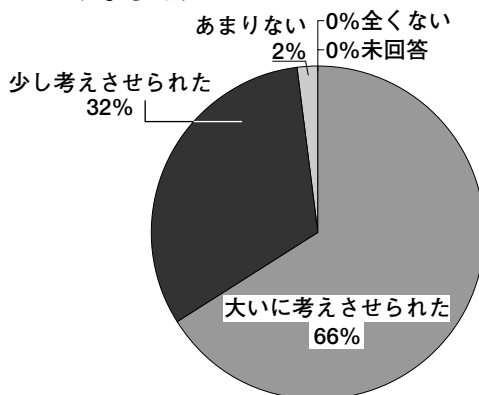
4 アンケート結果

本訓練に合わせて、災害対策への取り組みについてのアンケートを行った。その回答の一部を紹介する。有効回答数は211であった。

設問 訓練の参加（見学）して災害対策に対する認識が変わりましたか



設問 災害時に自分が何をすべきか考えさせられましたか



平成19年度下半期附属病院患者動態

平成19年度下半期の動態

	延入院患者数		外来患者数	
	(同上1日平均患者数)	対前年増減率	(同上1日平均患者数)	対前年増減率
	(新入院患者数)		(新患者数)	
H19.10	22,168	2.07%	48,899	4.30%
	715.1	2.07%	2,037.5	-0.04%
	1,336	12.08%	5,014	5.54%
H19.11	22,606	4.43%	46,218	0.98%
	753.5	4.44%	2,100.8	0.98%
	1,294	2.13%	4,805	0.82%
H19.12	22,034	5.76%	44,446	-1.95%
	710.8	5.76%	2,116.5	2.72%
	1,111	-3.22%	4,293	-4.62%
H20.1	20,055	0.59%	43,301	1.01%
	646.9	0.58%	2,062.0	1.01%
	1,310	2.99%	4,397	-4.87%
H20.2	21,390	3.17%	44,790	3.15%
	737.6	-0.39%	2,035.9	-1.54%
	1,314	10.51%	4,684	-0.59%
H20.3	23,603	1.77%	46,917	-2.92%
	761.4	1.76%	2,039.9	1.30%
	1,356	5.77%	4,912	-2.73%

平成20年度採用
附属病院臨床研修医

〔医科〕
総数48名

〔歯科〕
総数2名

平成19年度年間の動態

	入院				外来	
	1日平均患者数	1ヶ月平均新入院患者数	病床稼働率	平均在院日数	1日平均患者数	1日平均初診患者数
17年度	752.7	1129	86.1	18.4	2,039.0	210.5
18年度	709.5	1201	81.7	16.1	2,039.7	214.9
19年度	715.0	1265	85.8	15.5	2,035.0	211.6
増減率(17-18)	-5.74%	6.38%	-5.11%	-12.50%	0.03%	2.09%
増減率(18-19)	0.78%	5.33%	5.02%	-3.73%	-0.23%	-1.54%

■第3回治験説明会開催

平成20年2月21日(木)午後5時から臨床第Ⅰ講堂において、医師・看護師・薬剤師及びその他職員を含め158名の出席のもと、第3回治験説明会を開催いたしました。

昨年の第2回治験説明会時のアンケートにおいて、「治験における事例を紹介して欲しい」とのご要望を多数いただきましたので、今回の説明会では「治験の事例紹介—他部門との連携—」という題目にて、筋萎縮性側索硬化症と抗がん剤の2つの治験についての事例を他部門との連携に重点を置き、治験コーディネータより説明を行いました。

また、教育講演として呼吸器内科の藤阪保仁先生より「抗がん剤の臨床第Ⅰ相試験」についてご講演をいただきました。国立がんセンター中央病院での経験をもとに、臨床第Ⅰ相試験の意義や治験の進め方、さらに実際の現場における患者様への倫理的配慮やメンタルケアの難しさなどをわかりやすくご説明いただきました。

最後に、出席者にアンケートをご記入いただき閉会いたしました。130名より回答を得たアンケートの集計結果では、「今後、積極的に治験へ係わりたい」「通常業務の中で協力する」との回答を多数いただきました。治験は、看護部・薬剤部・検査部門・医事課をはじめとする院内各部署のご協力がなくては実施できません。今後も定期的に治験説明会を開催し、院内各部署の方々に治験について理解を深めていただきたいと思います。



医療安全対策室・感染対策室

■安全管理の体制確保に関する特別講演会

安全管理の体制確保に関する特別講演会が3月11日(火)午後5時から、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、水島綜合法律事務所 弁護士 水島幸子先生を講師としてお迎えし、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者406名の出席のもと開催されました。

米田医療安全推進部長の開会挨拶に続き、平松昌子先生の司会により、下記の特別講演が行われました。

研修終了後のアンケートでも、講師の話が軽快で分かりやすかった、インフォームド・コンセントの大切さについて理解できた、記録することの重要性が再確認できた等、概ね好評との意見が寄せられました。

最後に閉会の挨拶として、村尾医療安全対策室長より同先生への謝辞を述べられ、講演が盛会のもとに終了しました。



【特別講演】

演題 『医療紛争におけるインフォームド・コンセントの位置づけ』

講師 水島綜合法律事務所 弁護士 水島幸子 先生



医療安全推進部長 米田 博 挨拶



司会 平松昌子 先生



医療安全対策室長 村尾 仁 挨拶



講演風景

■感染対策室からのお知らせ

今回は、感染対策にかかわる平成19年度の主なトピックスについてご紹介します。

🌀麻疹流行への対応

昨年春、全国的に若者の間で麻疹（はしか）が流行しました。高槻市内でも4月に1名麻疹を発症したとの情報が入り、感染対策室ではすぐに対応を検討し実施しました。麻疹患者と接触するリスクの高い医療従事者に対して、麻疹抗体検査とワクチン接種を実施致しました。また保健管理室と協力して、臨床実習中の医学生に対しても同様の対策を実施致しました。夏に入り、職員1名の発症がありましたが感染の拡大はありませんでした。

🌀結核の診断におけるQFT検査の導入

結核の罹患率は大きく低下しています。しかし、発症すると治療期間が長く、また周囲に対する影響の大きさなど社会的な問題を抱えており、院内感染対策上重要視されるべき対象です。これまで結核に感染したかどうかの判断は、ツベルクリン反応により行われてきましたが、本年度から本学では、ツ反に代えて新たにクオンティフェロン（QFT）検査を採用しました。高齢者や免疫低下患者さまが結核を発症した際、診療に携わる医療従事者の罹患の有無について、精度よく迅速に判断できるようになり結核感染対策に大きな進展が見られています。

🌀感染対策研修の義務化

医療法の改正により、病院の全従業者は院内感染にかかわる研修を年2回受講することが義務づけられました。感染対策室では、昨年度内3回の研修会を実施し、半数以上の方に2回以上受講していただきました。受講状況は各部署宛に配布しています。これからも定期的に開催される研修会の案内にご協力頂きますよう、お願いいたします。

感染対策室 中川俊正

■主要会議とその主な議題(平成20年2月～4月)

[理事会]

(平成20年2月19日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学学則の一部改正について
2. 愛泉寮の土地建物に係る借入金の任意償還について

—報告事項—

1. 日本私立医科大学協会理事会報告
2. 金沢大学経営協議会学外委員の就任について
3. 寄付金関係報告
4. 学事関係報告
5. 病院関係報告
6. 看護専門学校関係報告
7. 会計検査院検査について

(平成20年3月27日・その1)

—審議事項—

1. 平成20年度事業計画及び予算の概要について
2. 平成20年度予算について
3. 病院長の選任について
4. 看護専門学校長の選任について
5. 理事の選任について
6. 評議員の選任について
7. 学校法人大阪医科大学経理規程の一部改正について
8. 長期借入金について

—報告事項—

1. 平成19年度資金収支決算見込報告書について
2. 担当理事運営会議報告
3. 日本私立大学連盟総会報告
4. 高次脳機能発達総合研究寄附講座の1年延長について
5. 歴史資料館関係報告

(平成20年3月27日・その2)

—審議事項—

1. 平成20年度事業計画及び予算の概要について
2. 平成20年度予算について
3. 長期借入金について

[評議員会]

(平成20年3月27日)

—審議事項—

1. 平成20年度事業計画及び予算の概要について
2. 平成20年度予算について
3. 長期借入金について

—報告事項—

1. 平成19年度資金収支決算見込報告について
2. その他

[大講座主任教授会]

(平成20年2月13日)

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 図書館長選挙の日程について
3. 今後の専門教授の課題及びその日程について
4. 専門教授制への課題について

(平成20年4月9日)

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 大講座再編について
3. 直近の課題について

[教授会]

(平成20年2月6日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 助教の申請基準について
3. 基盤医学Ⅱ講座 薬理学教室担当教授選考について
4. 総合診断・治療学講座 放射線医学教室担当教授選考について
5. 大阪医科大学附属病院長選考について
6. リハビリテーション医学教室担当教授選考について
7. 臨床教育准教授の追加上申について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告
3. 研究機構長報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告
5. 広報・入試センター長報告
6. 新入生学外合宿企画実行委員長報告

(平成20年2月19日)

—審議事項—

1. 平成20年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 教授選考の念書の取り扱いについて
4. 今後の附属病院長予定者選挙日程について
5. 名誉教授称号授与に関する件について
6. その他

—報告事項—

1. 学長報告

(平成20年2月26日)(臨時)

—審議事項—

1. 平成20年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 名誉教授称号授与に関する件について
4. 兼務病院長の推薦受付結果と選挙の実施について

主要会議報告

5. 病理学教室専門教授の公募について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育センター長報告

(平成20年3月5日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 薬理学教室教授選考について
3. 放射線医学教授選考について
4. 兼務病院長の学内投票の報告
5. キャリア形成検討委員会(仮称)について
6. 専門教授制度への整備について
7. 懸案の教室について
8. 中国医科大学との協定調印式について
9. 図書館長選挙結果について
10. 大阪医科大学附属病院放射線障害予防規程(案)について
11. 総合診断・治療学講座病理学教室専門教授選考委員会委員の変更について
12. 平成21年度後期入試の実施について
13. 「大阪医科大学研究生に関する内規」の一部改正について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告

(平成20年3月7日)(臨時)

—審議事項—

1. 一般入試後期1次試験合格者決定
2. その他

(平成20年3月12日)(臨時)

—審議事項—

1. センター入試2次試験合格者決定について
2. 人事に関する件
3. コンプライアンス委員会委員の任期延長について
4. 鈎奨学基金研究助成審査委員会委員長及び鈎奨学基金運営委員会委員の委嘱について
5. BULLETIN OF THE OSAKA MEDICAL COLLEGE編集委員会委員の委嘱について
6. 他期間からの委員等委嘱一覧について
7. リハビリテーション医学教室担当教授選考について
8. 平成20年3月31日で任期満了となる教授会での選出が必要な委員会一覧(教育職員)
9. その他

—報告事項—

1. 学長報告
2. 研究機構長報告
3. その他

(平成20年3月19日)

—審議事項—

1. 一般入試後期2次試験合格者決定について
2. 人事に関する件
3. リハビリテーション医学教室担当教授選考に関する討議
4. 心理学教授の処遇について
5. 兼務病院長の選考について
6. 第1～4学年の進級合否判定について
7. 第2・4学年給付奨学生(特待生)の選考について
8. 第1学年生の退学願い出について
9. 第2学年生の休学願い出について
10. 前回3月12日投票の平成20年3月31日で期間満了の各委員会の投票結果について
11. 特定生物安全管理委員会規程に関する規程類改正案について
12. 次期保健管理室長候補の選任について
13. 高次脳機能発達総合研究寄附講座1年延期について
14. その他

—報告事項—

1. 学長報告
2. 研究機構長報告
3. 倫理委員会委員長報告
4. キャリア形成検討委員会委員長報告
5. 病院長報告

(平成20年4月2日)

—審議事項—

1. 入学者決定について
2. 人事に関する件
3. リハビリテーション医学教室担当教授選考について
4. 不正防止小委員会の設置について
5. 特定生物安全管理委員会規程に関する規程類改正について
6. 研究機構規程類の改正について
7. 病院長及び、副病院長の就任について
8. 病理学教室専門教授公募期間延長について
9. 中山国際医学医療交流センター長の選出について
10. 動物実験委員長の選出について
11. 研究機構運営委員の選出について
12. 平成20年度オープンキャンパス及び入試説明会開催(案)について
13. 医師国試成績と分析
14. 第2学年生の休学願い出について
15. 第2学年生の復学願い出について
16. 第6学年生の復学願い出について
17. 大学院将来構想委員会について
18. その他

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告

(平成20年 4月16日)

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. コンプライアンス委員会委員の選出について
3. 倫理委員会委員の選出及び委員長、副委員長の選出について
4. 『『医療機器の臨床試験の実施』に関する大阪医科大学附属病院手順書』の改定について
5. 第2学年生の復学について
6. 直近の課題について
7. 新入生給付奨学金(特待生)候補者について
8. 大講座再編について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告
3. 図書館長報告
4. 中山国際医学医療交流センター報告
5. 病院長報告

[大学院医学研究科委員会]

(平成20年 2月6日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学大学院医学研究科聴講生規程(案)について
2. 平成19年度第3回学位論文審査に関わる件について

—報告事項—

1. 平成19年度大学院FDワークショップの実施要領について
2. 平成20年度「統合講義」について
3. 平成20年度「共同利用実験施設セミナー」について
4. 公募について

(平成20年 2月19日)

—審議事項—

1. 平成20年度大学院入学試験合否判定について
2. 学外研修の期間延長について

—報告事項—

1. 文部科学省平成20年度COEプログラムについて
2. 平成19年度大学院FDワークショップについて
3. 大学院医学研究科学生の研究指導の委託について

(平成20年 2月26日)

—審議事項—

1. 研究生辞退の願出に関する件

—報告事項—

1. 平成20年度大学院生の健康診断について

(平成20年 3月5日)

—審議事項—

1. 平成20年度研究生及び研究生(出向医)に関する継続・辞退および新規出願について
2. 大学院に関わる英文名称の統一について

—報告事項—

1. 平成19年度文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に関わる報告

(平成20年 3月12日)

—審議事項—

1. 平成19年度第3回学位授与可否について

—報告事項—

1. 平成19年度第3回学位記授与式について

(平成20年 3月19日)

—審議事項—

1. 平成20年度研究生新規出願について
2. 平成20年度学外研修許可願について

—報告事項—

1. 平成19年度成績評価に関するスケジュールについて
2. 平成20年度大学院医学研究科入学式について
3. 平成20年度大学院生定期健康診断について
4. 平成19年度大学院医学研究科第3回学位記授与式について
5. 平成20年度第1回学位論文審査について

(平成20年 4月2日)

—審議事項—

1. 平成20年度研究生新規出願について
2. 平成20年度基礎系在籍者の奨学金交付について
3. 平成20年度学外研修手続きについて
4. 平成20年度大学院に関連する委員の委嘱について

—報告事項—

1. 日本学生支援機構奨学金募集について
2. 「大学における厳正な学位審査体制等」の確立について

(平成20年 4月16日)

—審議事項—

1. 学外研修許可願について

—報告事項—

1. 平成20年度「共同利用実験施設セミナー」授業開講に伴う受講配慮について
2. 平成20年度大学院教育改革支援プログラムについて

保健管理室からのお知らせ

■ 特定健診・特定保健指導の取り組みについて

医療制度改革における医療保険者の役割として、「高齢者の医療の確保に関する法律」により、平成20年4月から、医療保険者に対し、40歳から75歳未満の加入者等（任意継続加入者及び被扶養者を含む）を対象とするメタボリックシンドロームに着目した特定健康診査及び特定保健指導の実施が義務付けられました。

メタボリックシンドローム（以下、メタボ）とは、運動不足、食べすぎ、喫煙など不健康な生活習慣による内臓型肥満に加えて高血糖、脂質異常、高血圧などの生活習慣病のリスクが重なった状態です。

この特定健診及び特定保健指導の目的は、メタボの人だけでなく、メタボ直前の予備群者にも生活を改善して予防してもらうのが狙いです。ですので、空腹時血糖や腹囲、心血管疾患の原因となる喫煙もリスクに加える等、メタボの判定基準よりもっと厳しい基準で動脈硬化リスクの高い対象者を選定する仕組みになっています。

さらに、平成25年度以降に医療保険者が納付する「長寿医療制度」への支援金に+/-10%の加算・減算措置がされる仕組みにもなっており、特定健診の成果によっては新たな負担増につながる可能性があります。

このような背景をふまえ、特定健診を利用し、早い段階で生活習慣病の兆しを発見し、できる範囲で生活習慣を改善する等して、教職員全員で健康意識を高めていきましょう。

＜ 本学での特定健診・特定保健指導の在り方（予定） *5～6月頃詳細周知予定 ＞

- 対象者……………40歳～74歳の私学共済加入職員及び被扶養者
*対象外……………妊産婦、海外在住者、6ヶ月以上継続入院者
- 特定健診実施日……〔職員〕秋期定期職員健康診断に特定健診を導入。
〔被扶養者〕6月以降、案内書、受診券、指定健診機関一覧票配布予定
- 健診項目……………従来の健診項目に、腹囲測定が追加。
- 特定保健指導の概要…特定健診後、結果に応じて対象者には特定保健指導利用券及び指定保健指導機関一覧が送付される。その医療機関に各自受けに行く。
- 費用……………当分の間無料

■ こころの健康について・・・一人で抱え込まないで、早めに相談しましょう。

本学の保健管理室には臨床心理士が常勤し相談業務を行っています。臨床心理士に相談することは特別なことと考えられる方も多いですが、風邪や発熱であれば服薬・受診するように、こころが不調になれば専門医や臨床心理士に相談することが大切であり、特別なことではありません。心身の不調があっても、誰かに話をしたくても、身近な人・職場の人には話しにくい、専門家に相談するのもためらわれると一人で抱え込んでしまう場合も少なくありません。身体疾患と同様にこころの不調も早めの対処が重要ですので、“しんどいな”と感じたら相談してみてください。深刻な悩みだけでなく、息抜き・ストレス発散の場としても気軽にご利用下さい。

なお相談内容の秘密は厳守しますので、ご安心してお越し下さい。

【利用方法】

① 保健管理室（研究棟1階）に直接来室して下さい。あらかじめ日時を予約をすることもできます。

- ② 電話、メールでの問い合わせ、予約も受付けています。
- ③ 受付時間：月～金曜日 9：00～17：00（予約有の場合、17：00以降でも可）
- ④ 問い合わせ先：072-684-6560（カウンセリング直通電話）
E-mail：hokekan@poh.osaka-med.ac.jp

■ B型肝炎ワクチン接種のご案内

1回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種、及び2回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種者の抗体確認検査を下記のように実施します。

1回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種

【実施日時】平成20年6月4日(水)、5日(木) 15：30～16：30

【場 所】総合研究棟1階 保健管理室

【対 象 者】4月に抗体検査を受けてワクチン接種を申込された方（但し、昨年度3回のワクチン接種を受けられた方は対象外）となります。

2回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種者の抗体確認検査

【実施日時】平成20年7月2日(水)、3日(木) 15：30～16：30

【場 所】総合研究棟1階 保健管理室

【対 象 者】6月に1回目B型ワクチン接種・追加ワクチン接種を受けた方

平成20年度B型肝炎ワクチン接種スケジュール

		6/4(水) 6/5(木)	7/2(水) 7/3(木)	12/3(水) 12/4(木)	平成21年1/21(水) 1/22(木)
時 間、場 所		保健管理室 15：30～16：30			15：00～16：00
新規	初めて受ける人 抗体を獲得したことがない人	1回目 ワクチン接種	2回目 ワクチン接種	3回目 ワクチン接種	抗体確認検査
追加	以前ワクチン接種で一度抗体を獲得した人	追加 ワクチン接種	抗体確認検査		

■ 特定・深夜業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診のご案内

平成20年度特定・深夜業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診を実施します。
対象者には事前に健診案内を配布しますので、日時などを確認の上、必ず受検して下さい。

【実施日時】平成20年5月21日(水)～23日(金) 9：00～15：30

【場 所】保健管理室、第7、8会議室（総合研究棟1階）

■ 長時間労働者健診のご案内

平成20年度春季 長時間労働者健診を実施します。

【対 象 者】平成19年9月～平成20年3月の間、月45時間以上の時間外・休日勤務をし、産業医が必要と認めた職員

【実施日時】平成20年5月21日(水)～23日(金) 9：00～15：30

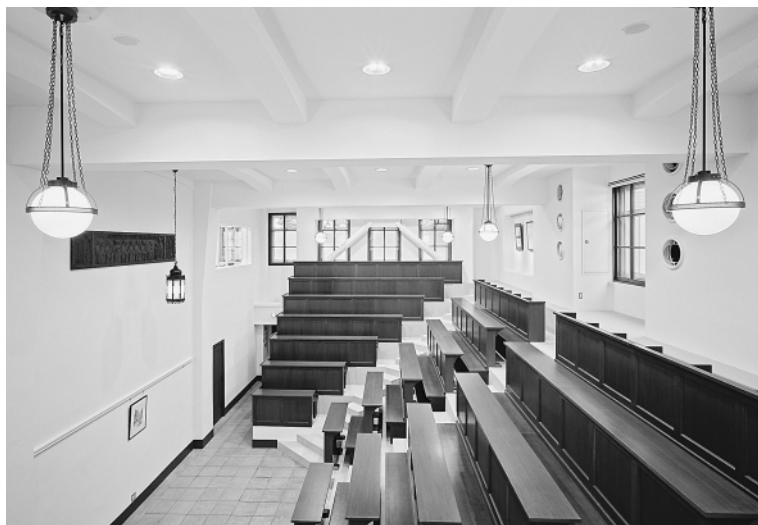
【場 所】保健管理室、第7、8会議室（総合研究棟1階）

歴史資料館

■別館講堂（階段教室）の完成

本年2月19日（火）より3月10日（月）にかけて、別館復元改修工事（2期工事）が施工されました。今回の工事では、北面ルーバー取り付け、旧本館玄関で使用されていた照明取り付け、講堂（階段教室）の備品（机・椅子）取り付けが行われました。

設計図に基づき復元された講堂（階段教室）については、文化財内部でありバリアフリーではありませんので、支障のない範囲で、講演会・研究会にも利用いただければと考えております。



■歴史資料館市民講座

第1回 歴史資料館市民講座が、下記の通り開催されました。

日 時：平成20年3月1日（土）14：00～15：30

場 所：別館3階 講義室

演 題：『健康の歴史とゆくえ—健康寿命をのばすための知恵』

講 師：衛生学・公衆衛生学 教授 河野 公一

参加者：約60名



■高槻景観フォーラム2008（主催：高槻市）

高槻市から市民を対象とした「高槻景観フォーラム2008」を開催するにあたり、優れた景観を有し国の登録有形文化財である本学別館（歴史資料館）で開催したい旨の依頼があり、下記の通り開催されました。

日 時：平成20年 3月 2日（日） 10：00～12：30

場 所：別館 3階 講義室

参加者：約90名

概 要

(1)「基調講演」

久 隆浩(近畿大学理工学部教授)



(2)「高槻市の景観の現状、今後の取り組み」

小林 守(高槻市都市産業部都市政策室長)



(3)「景観を守り育てるための活動事例」



神安土地改良区



サンスター株式会社



ええとこテラス

(4)「パネルディスカッション」



◆大阪医科大学俳句会（二・三・四月）

夕霧の墓の細身や春の雪	同	宮脇芳美
ビル街の祠小さき午祭	同	美濃真
保育所は眠りの刻か陽炎ひぬ	同	飯塚久子
寒梅やどの道もすぐ行き止まる	同	吉田孝江
春雪や赤きポストのベレー帽	同	中川一成
風花や湯の街にきし旅芝居	同	今井雄介
一斉にホルン上向くつばめの巢	同	山崎隆司
流水の根つこ泡噴く春暖炉	同	山崎隆司
山里は屋根葺く隙も落花かな	同	山崎隆司
花弁や鮒釣池に鮒放つ	同	山崎隆司
春暖炉犬の味覚は咽にある	同	山崎隆司
とどこほりとどこほりゆく花筏	同	山崎隆司
小湊や入るも出づるも蜷舟	同	山崎隆司

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、当句会で会員の出句と同じように選句します。入選句は当欄に掲載します。

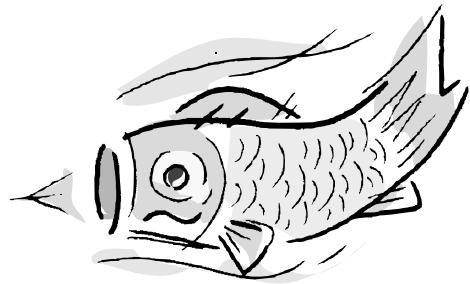
宛先は

〒569-8686 高槻市大学町2-7

大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。



***** 編集担当より *****

過日は学報についてのアンケート（学内配布）にご協力を頂きまして有り難うございました。

お寄せ頂きましたご意見は、今後の学報作成にあたり参考にさせていただきます。

今号ではページの都合上掲載出来ませんでしたが、次号から順次アンケートの回答内容等を掲載させて頂くつもりです。なお、引き続き、ご意見等がございましたら、専用メールアドレス：gakuho@art.osaka-med.ac.jpまでお寄せ下さい。

■『2008たかつき産業フェア』への出展

去る平成20年2月7日から2月12日の6日間、JR高槻駅前にある松坂屋高槻店の5階大催事場において、高槻商工会議所創立60周年記念「2008たかつき産業フェア」が開催されました。（高槻にある38の企業・団体・大学が出展）

本学も平成19年度が創立80周年記念にあたり、その行事の一環として、たかつき産業フェアに出展しました。テーマは「大阪医科大学の昔と今」と題し、本学80年の歴史をパネルやDVDで紹介。また昨年12月に開催した「創立80周年記念特別市民講演会」の録画ビデオを放映。その他にも各診療科のパンフレット、大学案内や歴史資料館案内のパンフレットを置き、展示会場でお渡ししました。

出展内容をご紹介しますと、大阪医科大学は「地域と共に80年」をテーマに創立80周年記念事業を展開しましたが、80年という大切な節目の年、その歴史における歩みを振り返り、現代社会で果たすべき本学の役割について展示し、また次の新たな時代に必要とされる医科大学を目指し、その基礎となる未来構想についても紹介しました。展示内容は3つのキーワードに分けて構成。

その1「歴史を振り返る」

歴史的な写真の展示。

医学研究の進歩と本学の関わりについてのパネル展示。

本学を支えてくださった多くの方への感謝を表現。

その2「現代における役割」

附属病院、附属看護専門学校の紹介。

医学研究・産学協同プロジェクトなどの紹介。

大学、附属病院の機能・施設充実についての紹介。

その3「未来構想」

看護専門学校の4年制化についての説明。

都市整備事業および地域振興への参画。

また開催中を通し「たかつき産業フェア クイズラリー」が催されました。これは出展ブースを訪れた方々に、出展者とのふれあう機会を多くすることを目的に、出展者に関わる簡単なクイズを出題し、各ブース全30問をラリー形式で答えていくというものです。正解者にはお菓子などの商品が渡されました。本学のクイズは「大阪医科大学は創立〇〇周年を迎えました。〇〇に入る数字を①～③よりお選びください。①80 ②50 ③25」にしました。

クイズラリーにはご来場された多くの方が参加され、本学ブースにもたくさんの方にお越し頂きました。皆さん、本学が80周年を迎えていることを知ると、感慨深そうな方、驚かれる方など様々な印象を持たれたようですが、一応に「医大にはお世話になった」という方ばかりで、本学・本院が今まで地域で果たした役割の大きさと密着振りを肌と感じました。そしてパネル展示の昔の写真を懐かしむように見ておられました。

また、会場に設営されたイベント広場では、2月11日（祝）に「心肺蘇生とAED」と題して、本学救急医療部の小林講師はじめ多くの先生が出演し、AEDの実際の使い方を披露しました。そのうえ話だけでなく、来場者に体験をしてもらうため、AEDを使っただけの模擬指導、また心肺蘇生医療を紹介しました。多くの方に興味を持ってもらったと思います。

産業フェア6日間での総来場者数は12,000人を超え大盛況でしたが、本学ブースも大勢の方が見て頂き、担当スタッフにも色々とお言葉や応援を頂戴しました。改めて本学・本院への皆さまからの大きな期待をひしひしと感じたフェアでしたが、今後とも地域のために色々な面で尽力していかなければならないと感じました。

（総合企画部 磯田）



● 第59回西日本医科学生総合体育大会総合優勝 ●

大阪医科大学は、第59回西日本医科学生総合体育大会において、第12回、第26回に続き通算3回目となる総合優勝を果たしました。この大会は「西日本所在の大学の医学部及び医科大学の医科学生相互の親睦を図り、スポーツの奨励発展に寄与することを目的」としており、毎年44大学が参加して開催されています。

平成19年度は本学の学生のスポーツ面での活躍が目覚ましく、中でも柔道部は本大会だけでなく、全日本医科学生体育大会でも優勝という快挙を成し遂げました。

本学は「グローバル社会で活躍できる、人間性豊かな良医の養成」を建学の精神と掲げており、学生時代のクラブ活動は医師としての肉体を鍛え精神面を強くし、コミュニケーション能力を養うことができる大切な場であると考えています。スポーツは、勝つことだけが目的ではありません。しかし、学生諸君がそれぞれの目標に向かって切磋琢磨した結果、このような素晴らしい成果を挙げられたことは、大変喜ばしいことでもあります。今後も、本学は文武両道において活躍されることを期待しております。

平成20年 4月

大阪医科大学
学長 植木 實



個人情報の取扱いについて：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総務部 学報編集担当係 電話 072-684-6218
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第76号

発行年月 平成20年5月
発行 学校法人 大阪医科大学
編集・発行 総務部
印刷 大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
<http://www.osaka-med.ac.jp/>